

第1章 調査実施の概要

1 調査目的

このアンケート調査は、「宇部市障害者福祉計画」の改定にあたり、本市における障害のある人(障害児を含む)の生活実態や障害福祉サービスの利用状況、今後の施策ニーズ等を把握し、計画改定の基礎資料とすることを目的に実施したものです。

2 調査設計

このアンケート調査は、以下のとおり、身体障害者、知的障害者及び精神障害者を対象として、共通の調査票によって調査を実施しました。

(1) 調査対象者

■調査対象者：平成 22 年 8 月 1 日現在における本市在住の身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳の所持者。

■調査人数：1,000 件(調査対象者から無作為抽出)
調査対象者は、障害者(18 歳以上)と障害児(18 歳未満)に分けて、無作為抽出を行っています。

(2) 調査方法

調査票は、障害者用と障害児用の 2 種類による本人記入方式(本人が記入できない場合は家族等)とし、郵送による配布・回収を行いました。

(3) 調査期間

平成 22 年 8 月 9 日～平成 22 年 8 月 31 日

(4) 回収状況

調査対象	調査数(配布数)	調査票回収数	回収率
障害者(18 歳以上)	900 人	500 人	55.6%
障害児(18 歳未満)	100 人	52 人	52.0%
合計	1,000 人	552 人	55.2%

〔報告書の見方〕

- 複数回答(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答者数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100%を超える場合があります。
- グラフの N 数は、回答者数(number of case)を表しています。
- 本文中の設問や選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

第2章 障害者に関する調査結果

1 調査結果の総括

(1) 回答者の属性

- 調査票の回答者は、身体障害者及び精神障害者の約7割は「本人」が記入し、知的障害者の約6割は「家族・親族」が本人の立場に立って回答している。
- 回答者のうち、約7割(68.1%)が「身体障害者手帳」所有者であり、以下、「療育手帳」(14.7%)、「精神障害者保健福祉手帳」(10.9%)と続いている。
- 男女比はほぼ同数で、年齢構成は「65歳以上」が45.7%、「40歳から64歳」が30.6%となっている。
- 住居は半数以上が「持ち家」に住んでおり、精神障害者は「一人暮らし」が最も多く(34.2%)、身体障害者及び知的障害者は同居者がいる割合が多い。
- 日中の過ごし方として、身体障害者及び精神障害者は「自宅」で過ごすことが多く、知的障害者は「小・中・高等学校」又は「施設・病院」で過ごすことが多い。

(2) 日常生活における介助・支援について

- 3障害とも「家の中の移動」は一人でできる割合が高いが、「銀行や役所などでの手続き」は一人で処理することが難しく、支援が必要な状況である。
- その他、日常生活において支援を要することとして、身体障害者は「書類を読んで記入」(23.1%)・「そうじ・食事・せんたくなど、家事のこと」(22.6%)、知的障害者は「書類を読んで記入」(64.9%)・「お金の管理」(54.3%)、精神障害者は「そうじ・食事・せんたくなど、家事のこと」(31.5%)・「書類を読んで記入」(28.8%)の割合がそれぞれ高い。

(3) 就労について

- 回答者のうち18歳から64歳までの人において、身体障害者の34.1%、知的障害者の39.6%、精神障害者の16.0%が、現在、就労(パート・アルバイトも含む。)している。
- 現在、仕事をしていない理由については、3障害とも「障害や病気が重くて仕事ができない」という回答が最も多く、「治療を優先したい」と「自分にできる(合う)仕事がない」が続いている。
- 就労に必要な環境については、「身体に負担のない仕事が選べる」ことや「周囲の人の理解」が望まれており、特に、知的障害者においては「障害に合わせての指導」や「通勤のしやすさ」が挙げられている。

(4) 医療・保健について

- 身体障害者の約8割、知的障害者の約6割、精神障害者の約9割が現在、定期的に受診している。
- 医療について困っていることとして、3障害とも「待ち時間が長い」や「医療費や薬代など、お金がたかさんかかる」という点が挙げられている。その他、身体障害者及び精神障害者においては「診療所や病院が遠い」や「病院までの交通機関が少ない」、知的障害者においては「治療の説明がよくわからない」、「障害の状態について医療機関に理解してもらえない」といった声も多い。
- 医療・保健については、「障害や病気に関する相談窓口の増設」が求められている一方で、「医療関係者への研修会」や「障害や病気に関する講演会」の開催も望まれている。

(5) 障害福祉サービスについて

- 身体障害者においては、「訪問系サービス」や「補装具の給付」、「住宅の改修」の認知度が高いが、知的障害者及び精神障害者においては、「日中活動系サービス」や「居住系サービス」、「訪問系サービス」など、事業者提供型の福祉サービスについての認知度が高い。
- 今後、利用したいサービスとして、身体障害者は「補装具の給付」、「住宅の改修」及び「日常生活

用具の給付」の意向が強いが、知的障害者及び精神障害者は「日中活動系サービス」、「居住系サービス」、「訪問系サービス」など、事業者提供型の福祉サービスの利用意向が強い。

- 福祉サービスを利用しやすくするためには、3障害とも「利用料を安くする」と「手続きを簡単にする」の声が多い。

(6) 外出時について

- 外出時に良くなってほしいこととして、身体障害者からは「歩道上の段差解消」(20.3%)や「交通費の負担軽減」(15.3%)、知的障害者からは「困った時の周りからの支援」(16.0%)や「歩道上の段差解消」(11.4%)、精神障害者からは「交通費の負担軽減」(18.4%)や「困った時の周りからの支援」(12.9%)が求められている。

(7) 建物について

- 「今住んでいる家」で改良したい場所は、身体障害者は「風呂の整備」(19.7%)や「手すりの設置」(14.1%)、「段差解消」(13.8%)で半数を占めるが、知的障害者及び精神障害者においては、「特になし」が概ね半数を占める結果となっている。
- 「公共の施設」で改良してほしい所として、身体障害者は「段差解消」(29.8%)や「障害者用トイレの増設」(25.3%)、「エレベーターやエスカレーターの増設」(20.7%)を求めており、知的障害者は「段差解消」(13.8%)や「障害者用トイレの増設」(10.6%)、精神障害者においては、「段差解消」(24.7%)、「自動ドア等への改修」と「エレベーターやエスカレーターの増設」が各12.3%となっている。

(8) 災害について

- 「災害時要援護者支援制度」については、3障害とも「知らない」が半数を超えているが、「知っている」と答えた人については、その半数近くが「登録済み」又は「登録したい」と答えている。
- 防災情報の入手手段は、3障害とも「テレビ」、「家族」及び「ラジオ」で全体の7割を占めている。
- 災害発生時における心配な点として、身体障害者は「避難場所での対応」(12.4%)、「一人で避難できない」(12.3%)、「避難場所においてベッドやトイレが未整備」(12.1%)が挙げられ、知的障害者は「一人で避難できない」(17.3%)、「自分が避難すべきかわからない」(14.9%)、「避難場所での対応」(12.4%)、精神障害者は「自分が避難すべきかわからない」(15.8%)、「どこに避難したら良いかわからない」(12.1%)が挙げられている。

(9) 社会参加の状況について

- 「自治会」や「障害者団体」、「障害者との交流会・イベント」等で活動している人がいる一方で、「特に活動していない」と答えた人が、3障害とも約4割近く存在している。
- 今後、参加してみたい活動として、3障害とも「障害者との交流会」が多いが、身体障害者の34.3%が「特になし」と回答している。
- 社会参加しやすい環境づくりとして、身体障害者は「トイレの整備」(13.8%)や「交通機関や道路の整備」(13.7%)、知的障害者は「障害者も楽しめる催しの開催」(20.2%)や「周囲の人の理解」(17.0%)、精神障害者は「交通機関や道路の整備」(14.2%)や「周囲の人の理解」(14.2%)の割合が高い。

(10) 障害者に対する理解について

- 障害者に対する周囲の理解について、身体障害者と知的障害者は約6割が「理解されている」と回答している。
- 一方、理解されていないと感じる場合として、「外出の時に困っていても助けてくれない」や「外見ではわからないため、周囲の人に理解してもらえない」という意見があった。
- 理解を深める取り組みについては、身体障害者は「障害者自身が積極的に社会参加をする」(16.6%)や「小・中学校での福祉教育の充実」(12.8%)、知的障害者は「小・中学校での福祉教育の充実」

(22.4%)や「教育・福祉従事者の福祉教育の充実」(15.8%)、精神障害者は「スポーツ・文化活動を通じた地域住民との交流」(17.4%)、「障害者自身が積極的に社会参加をする」(13.9%)の割合が多い。

(11) 情報の入手について

- 情報入手の際に困っていることとして、「専門用語など、わからない言葉が多い」と「わかりやすく説明してくれる人がいない」が、3障害とも多い。
- 市政情報の入手方法として、3障害とも約3割の人が「広報うべ」から情報を得ており、以下、「新聞・テレビ・ラジオ」、「郵便物(市からの通知)」の順で続いている。
- 市からの情報に望むこととして、3障害とも「わかりやすさ」が半数を超えており、次に「詳しさ」、「手に入れやすさ」の順で続いている。
- 「広報うべ」を毎号読んでいる人は、身体障害者で6割を超えており、知的障害者と精神障害者においても約4割となっている。

(12) 相談について

- 困ったときの相談相手として、3障害とも「家族」が一番多いが、以下、身体障害者は「病院の医師・看護師等」(15.3%)や「友人・知人」(13.1%)、知的障害者は「学校・職場の関係者」(11.4%)、精神障害者は「病院の医師・看護師等」(19.0%)が多い。

(13) 今後の障害者福祉について

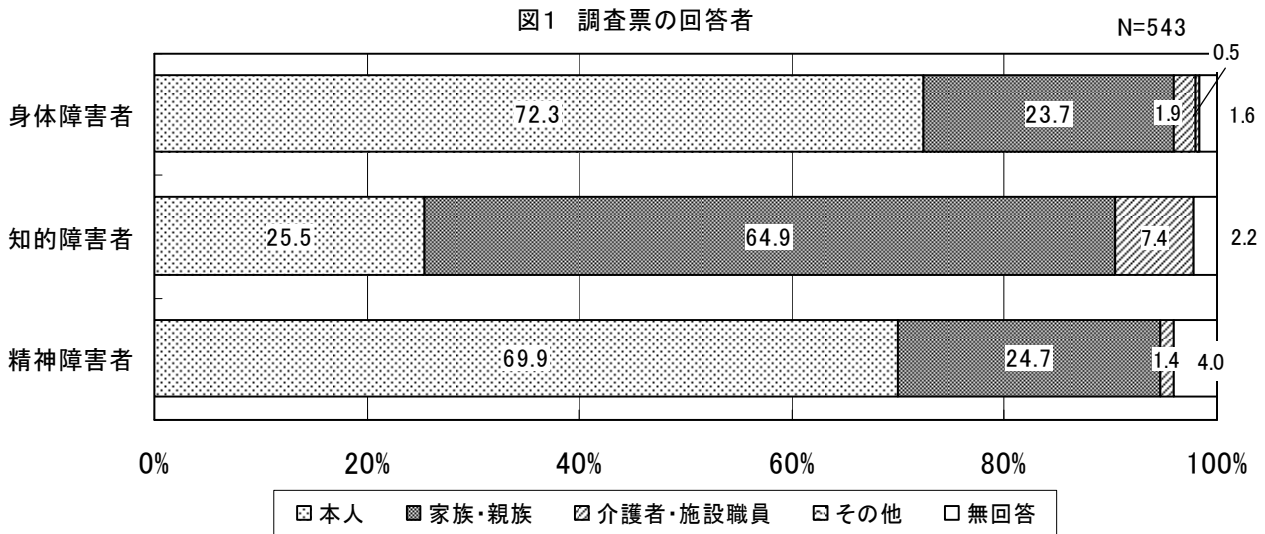
- 今後の障害者福祉の取組みとして、身体障害者は「年金や手当等の増額」(16.9%)や「医療費負担の軽減」(12.5%)など、経済的な支援策を望んでおり、知的障害者においては「働くための訓練場所の整備」(10.2%)や「働く場の拡充」(9.3%)など、就労に関する支援策を望んでいる。また、精神障害者は「年金や手当等の増額」(14.8%)や「相談体制の充実」(8.8%)等を望んでいる。

(14) 障害児を持つ保護者への質問

- 障害の判定を受けた時の気持ちとして、「障害のことや福祉制度についての情報が少なかった」(19.5%)、「これからどうしてよいかわからなかった」(18.0%)、「障害や病気のことについて何もわからず、不安だった」(17.2%)という回答が多かった。
- 障害の早期発見の取組みについて、「十分できている」及び「まあまあできている」を合わせて半数を占めており、早期発見のために必要なこととして、「関係機関の連携」と「乳幼児健診の充実・健診後のフォロー」が挙げられている。
- これまで、教育や保育を受ける中で困ったこととして、「教諭等に障害のことについて理解されていない」(18.9%)、「他の児童・生徒に理解されていない」(15.8%)の割合が高く、教育に対する要望として、「専門知識を持った教職員の配置」(27.5%)や「理解を深める教育の推進」(22.1%)、「個人ニーズに応じた教育の推進」(17.6%)が求められている。
- 子供の将来について不安な点として、「親の死後、子供の世話をする人がいないこと」(19.6%)や「障害の状態の変化」(14.9%)、「就職」(12.2%)が挙げられている。

2 回答者の属性 ※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

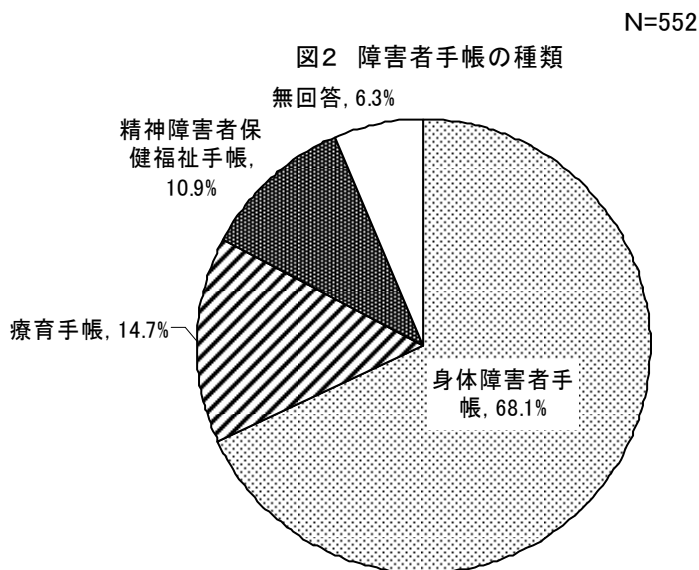
(1) 調査票の回答者



この調査票の回答者は、身体障害者では「本人」が72.3%と最も多く、次に「家族・親族(が本人の立場に立って回答)」が23.7%、「介護者・施設職員(が本人の立場に立って回答)」が1.9%となっている。

また、知的障害者は「家族・親族」が64.9%、「本人」が25.5%、「介護者・施設職員」が7.4%、精神障害者は「本人」が69.9%、「家族・親族」が24.7%、「介護者・施設職員」が1.4%となっている。

(2) 障害者手帳の種類

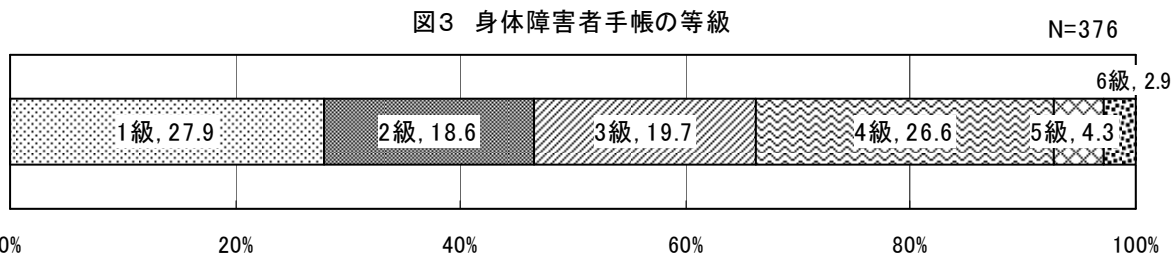


障害者手帳の種類では、「身体障害者手帳」が68.1%、「療育手帳(知的障害者)」が14.7%、「精神障害者保健福祉手帳」が10.9%、「無回答」が6.3%となっている。

※重複して手帳を持っている方は、下記の「1>2>3」の順位で判断した。

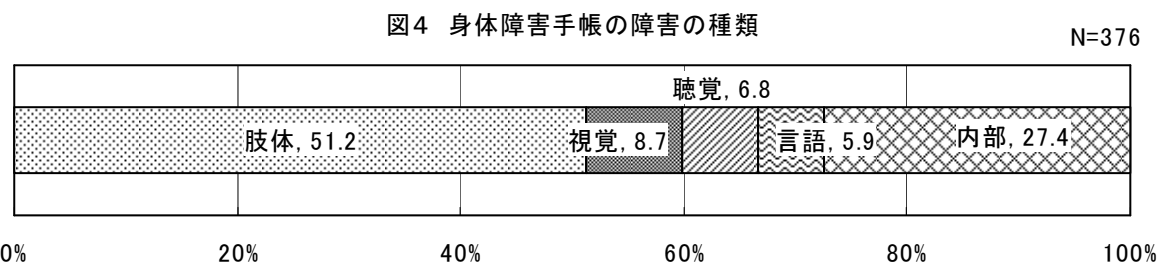
- 1 身体障害者手帳
- 2 療育手帳
- 3 精神障害者保健福祉手帳

①身体障害者手帳の等級



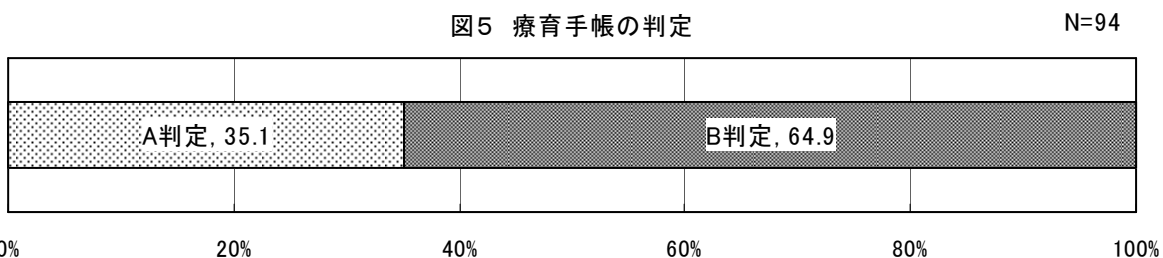
「1級」が27.9%と最も割合が高く、続いて「4級」の26.6%、「3級」の19.7%、「2級」の18.6%となっている。

②身体障害者手帳の障害の種類



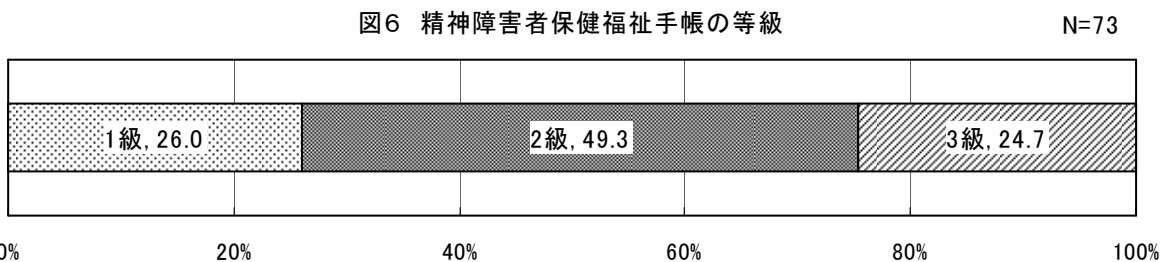
「肢体不自由」が51.2%、続いて「内部障害」が27.4%、「視覚障害」が8.7%、「聴覚障害」が6.8%となっている。

③療育手帳の判定



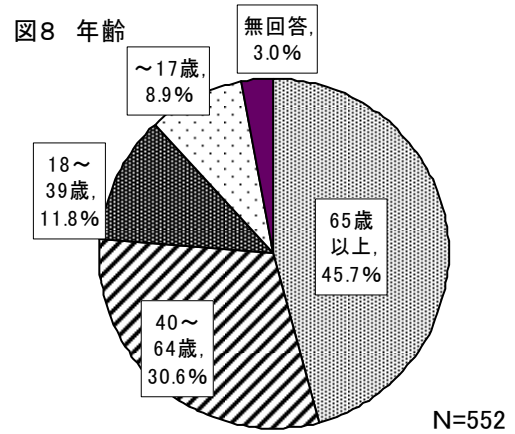
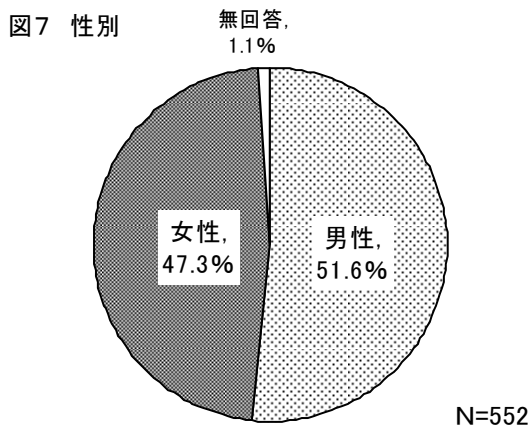
知的障害者における手帳の判定は、「A判定(重度)」が35.1%、「B判定(中・軽度)」が64.9%となっている。

④精神障害者保健福祉手帳の等級



精神障害者保健福祉手帳の等級については、「2級」が49.3%と最も割合が高く、「1級」が26.0%、「3級」が24.7%となっている。

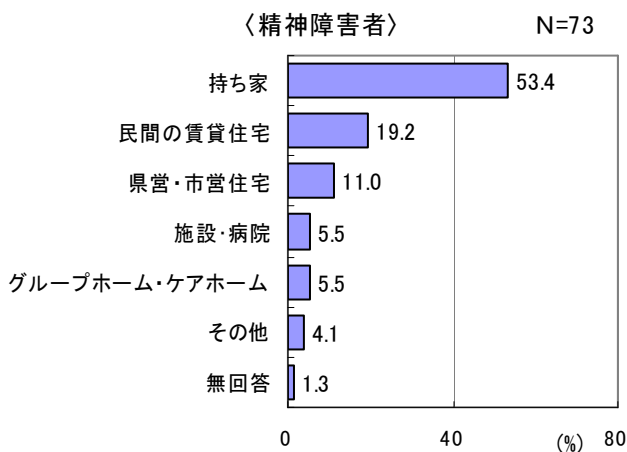
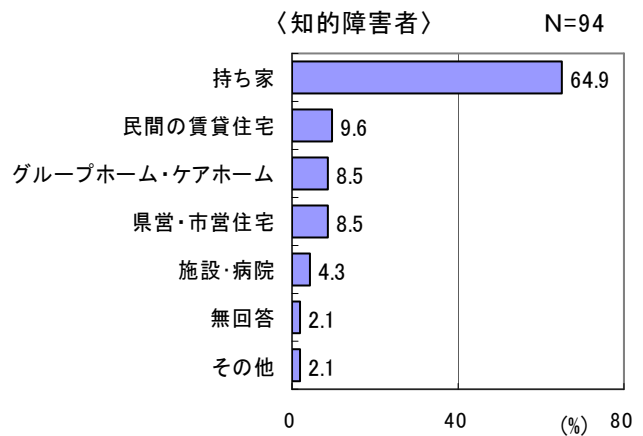
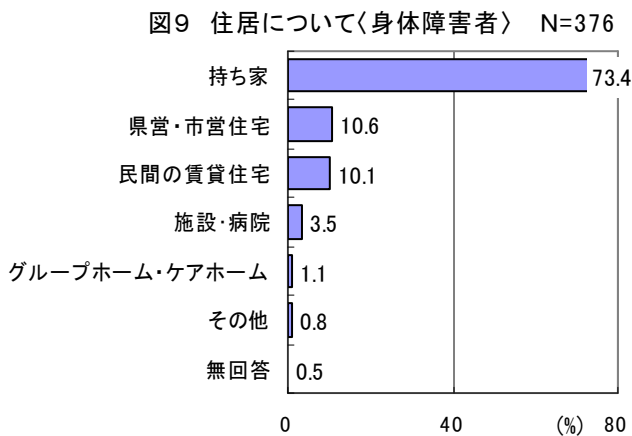
(3) 性別及び年齢



○性別は、「男性」が51.6%、「女性」が47.3%。
○年齢は、「65歳以上」が45.7%、「40~64歳」が30.6%、「18~39歳」が11.8%となっている。

(4) 居住環境

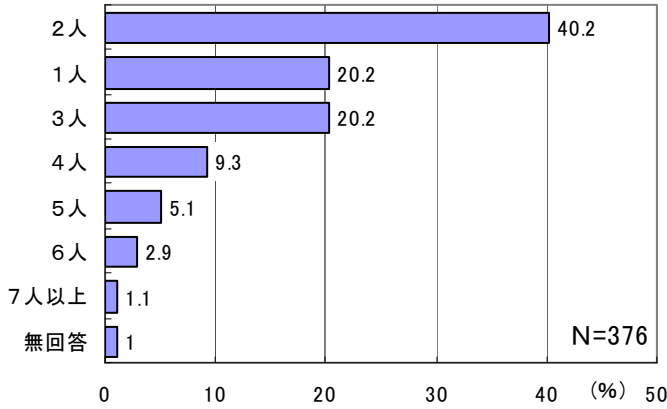
①住居



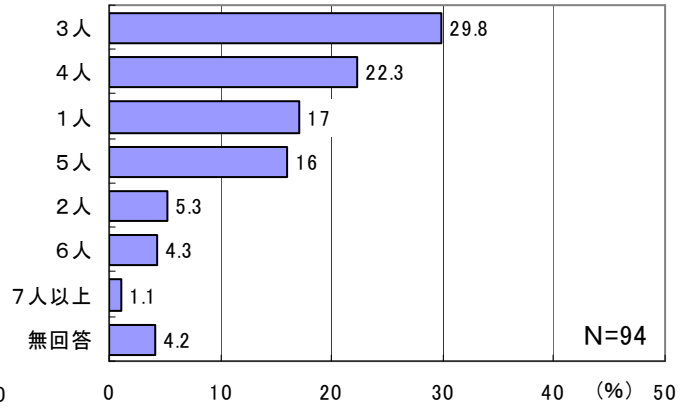
○身体障害者は、「持ち家」が73.4%、「民間の賃貸住宅」が10.1%となっている。
○知的障害者は、「持ち家」が64.9%、「民間の賃貸住宅」が9.6%、「県営・市営住宅」と「グループホーム・ケアホーム」が各8.5%となっている。
○精神障害者は、「持ち家」が53.4%、「民間の賃貸住宅」が19.2%、「県営・市営住宅」が11.0%となっている。

②世帯人員

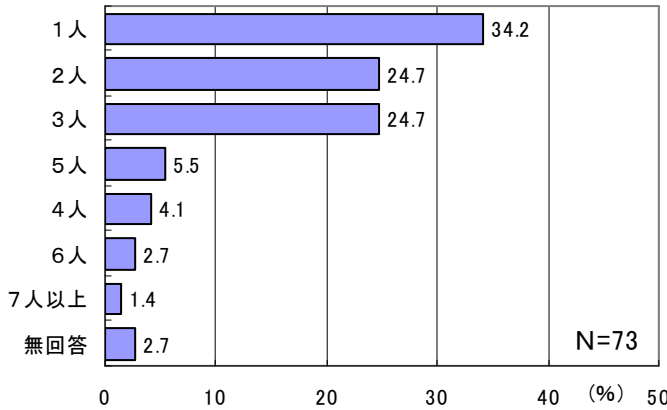
図10 世帯人員<身体障害者>



<知的障害者>



<精神障害者>



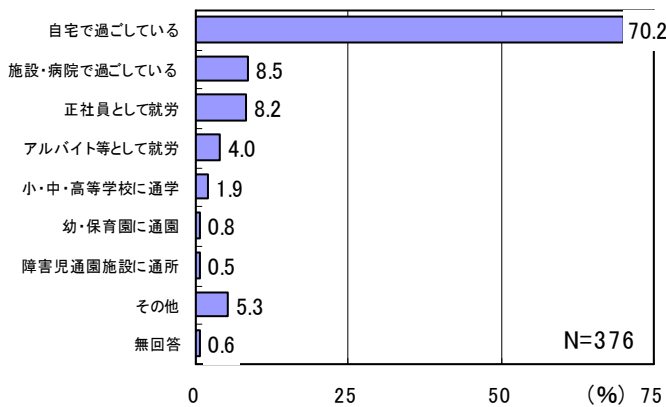
世帯人員は、身体障害者では「2人」が40.2%、「一人暮らし」と「3人」が各20.2%となっている。

知的障害者は「3人」が29.8%、「4人」が22.3%、「一人暮らし」が17.0%となっている。

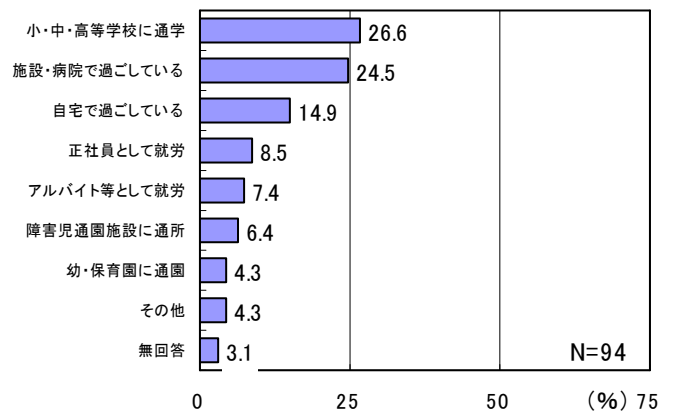
精神障害者は、「一人暮らし」が34.2%、「2人」と「3人」が各24.7%となっている。

(5) 日中(平日)の過ごし方

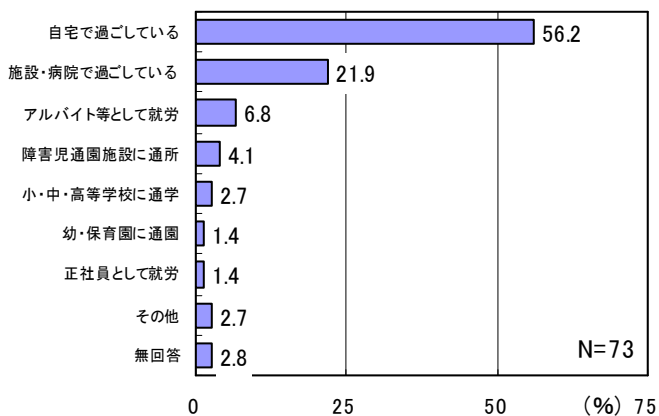
図11 平日の昼間の過ごし方<身体障害者>



<知的障害者>



<精神障害者>



日中の主な過ごし方では、身体障害者は「自宅」が70.2%、「施設・病院」が8.5%、「正社員として働いている」が8.2%となっている。

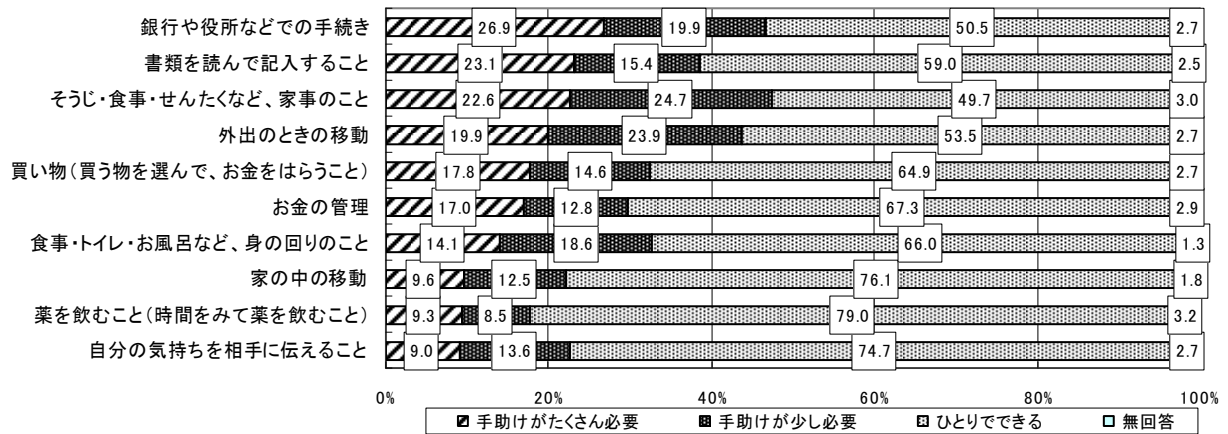
知的障害者は、「小・中・高等学校」が26.6%、「施設・病院」が24.5%、「自宅」が14.9%となっている。

精神障害者は、「自宅」が56.2%、「施設・病院」が21.9%、「パート・アルバイトとして働いている」が6.8%となっている。

3 日常生活における介助・支援の状況※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

図12 日常生活における介助・支援の状況〈身体障害者〉

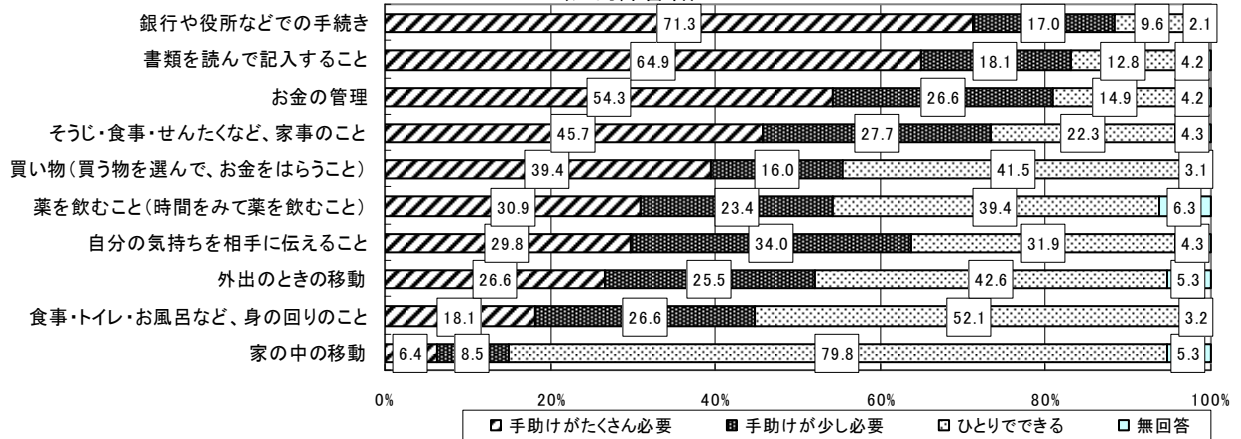
N=376



身体障害者で「手助けがたくさん必要」なことは、「銀行や役所などでの手続き」が26.9%、「書類を読んで記入すること」が23.1%、「そうじ・食事・せんたくなど、家事のこと」が22.6%となっている。
一方、「ひとりできる」ことは、「薬を飲むこと（時間をみて薬を飲むこと）」が79.0%、「家の中の移動」が76.1%、「自分の気持ちを相手に伝えること」が74.7%となっている。

〈知的障害者〉

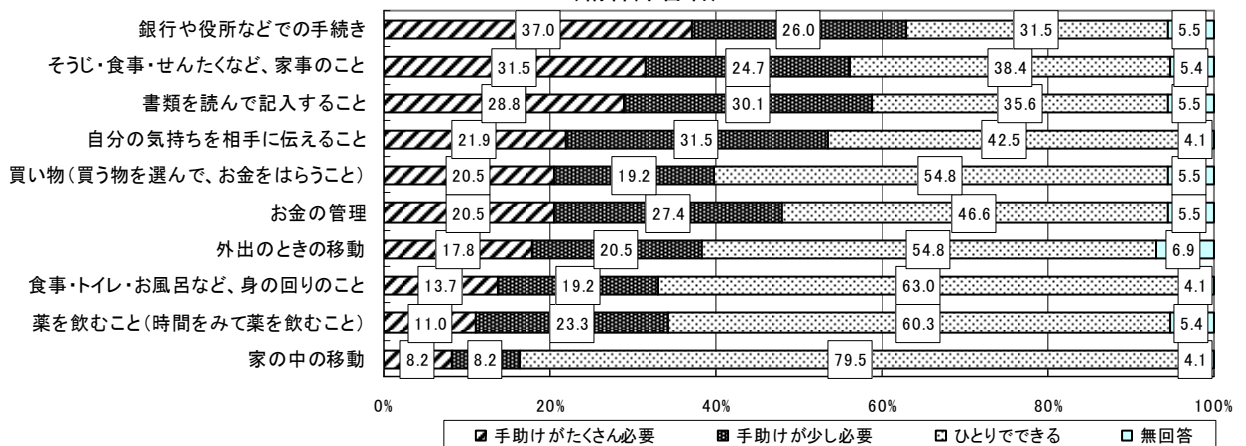
N=94



知的障害者で「手助けがたくさん必要」なことは、「銀行や役所などでの手続き」が71.3%、「書類を読んで記入すること」が64.9%、「お金の管理」が54.3%となっている。
一方、「ひとりできる」ことは、「家の中の移動」が79.8%、「食事・トイレ・お風呂など、身の回りのこと」が52.1%、「外出のときの移動」が42.6%となっている。

〈精神障害者〉

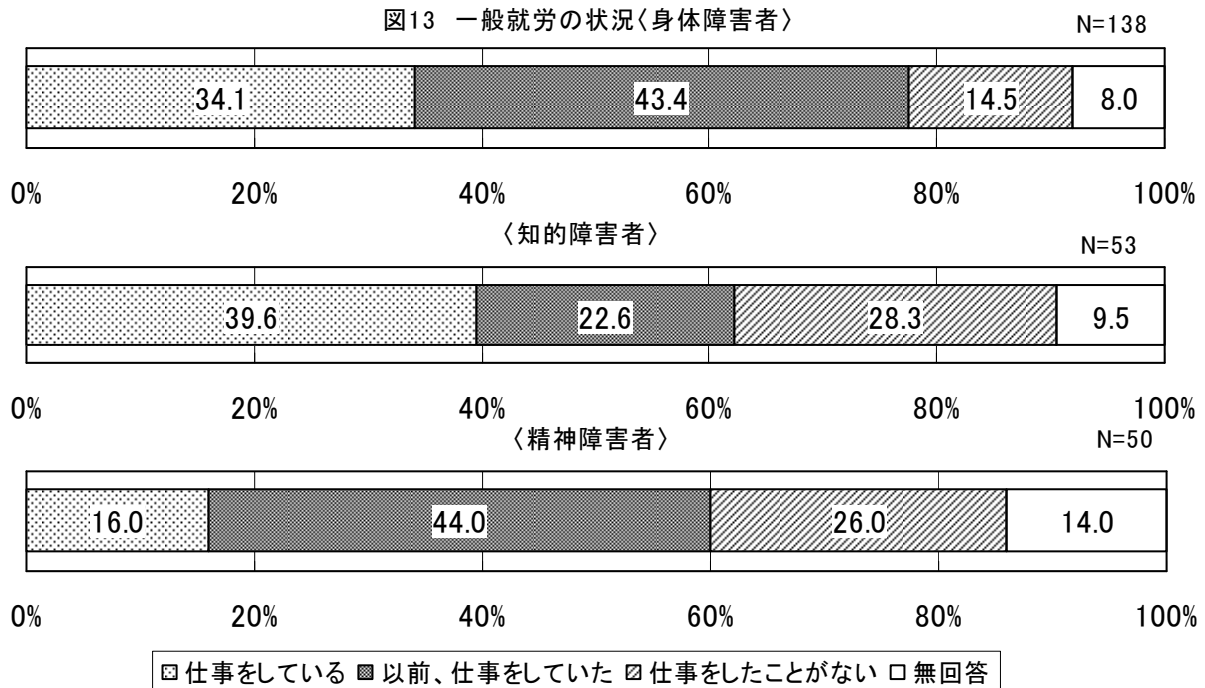
N=73



精神障害者で「手助けがたくさん必要」なことは、「銀行や役所などでの手続き」が37.0%、「そうじ・食事・せんたくなど、家事のこと」が31.5%となっている。
一方、「ひとりできる」ことは、「家の中の移動」が79.5%、「食事・トイレ・お風呂など、身の回りのこと」が63.0%、「薬を飲むこと」が60.3%となっている。

4 就労の状況について〈回答者のうち、18～64歳の人〉

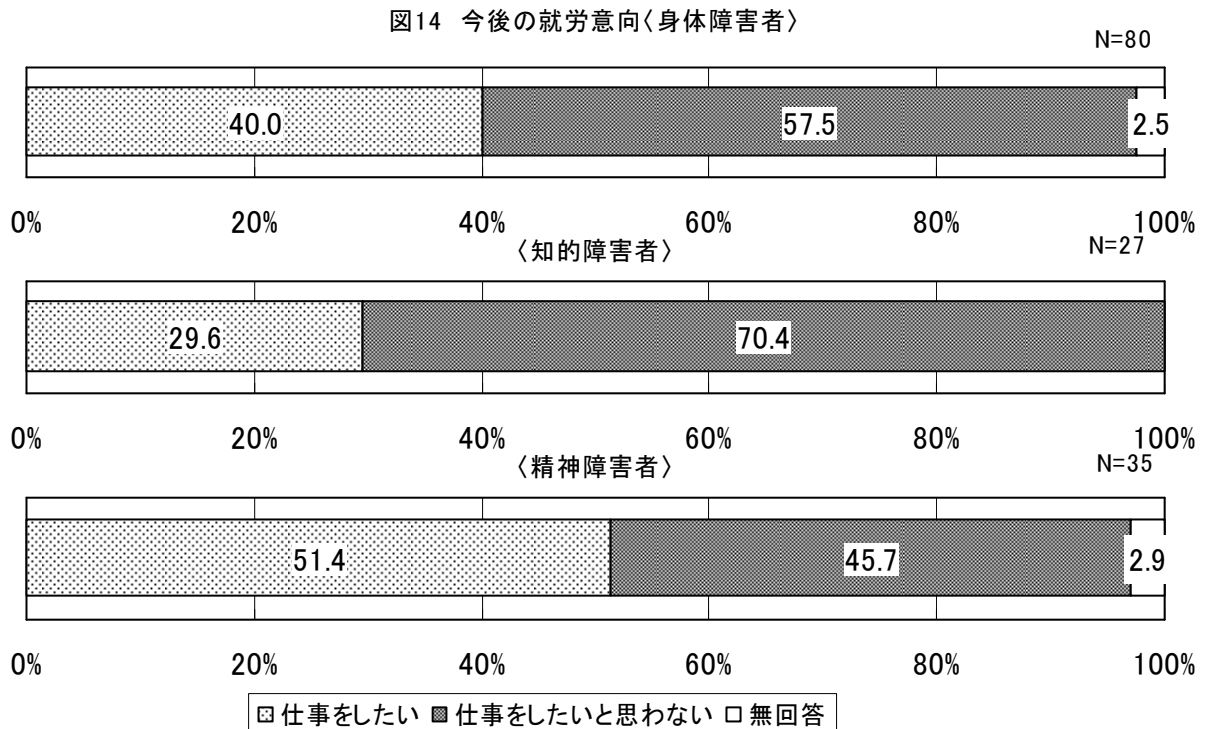
(1) 現在の就労の状況について



18歳から64歳までの人において、「現在働いている(福祉的就労は含まない。)」と回答した人は、身体障害者で34.1%、知的障害者で39.6%、精神障害者で16.0%となっている。

一方で、現在、仕事に就いていない人(「以前、働いていた」・「働いたことがない」)は、身体障害者で57.9%、知的障害者で50.9%、精神障害者で70.0%となっている。

(2) 現在、仕事をしていない人の今後の就労意向

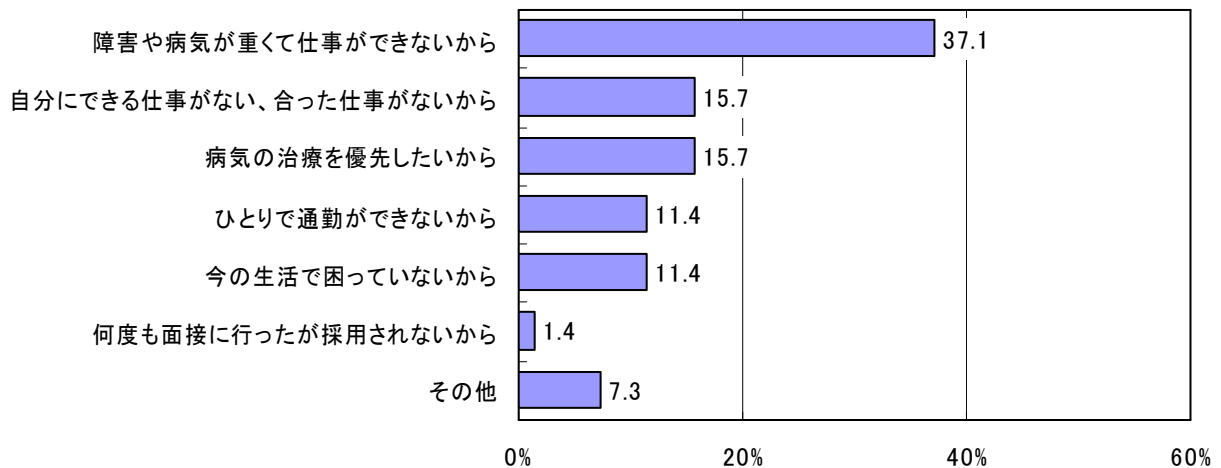


現在、仕事をしていない人のうち、身体障害者の40.0%、知的障害者の29.6%、精神障害者の51.4%が「仕事をしたい」と答えており、逆に「仕事をしたいと思わない」と回答した人は、身体障害者で57.5%、知的障害者で70.4%、精神障害者で45.7%となっている。

(3) 現在、仕事をしていない理由

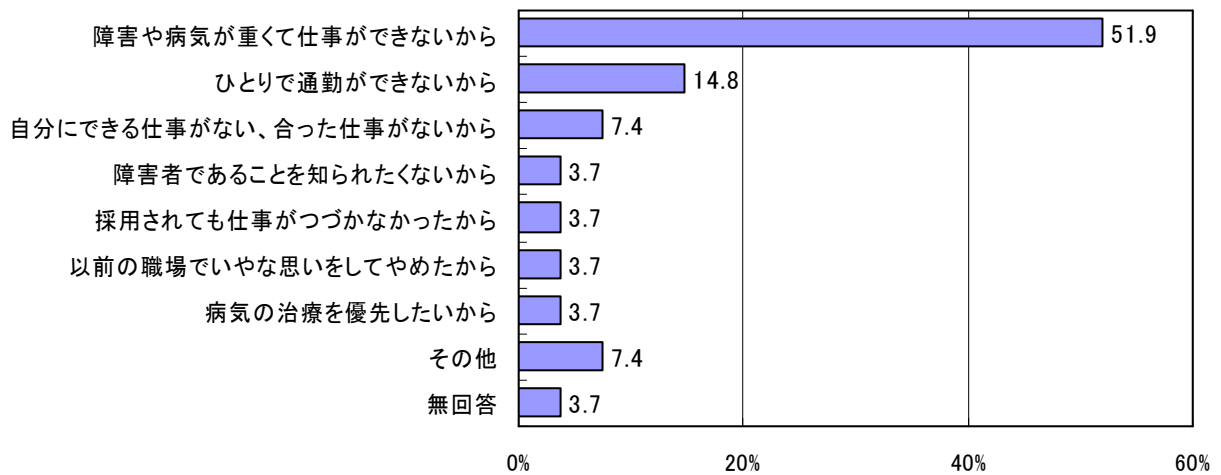
図15 仕事をしていない理由<身体障害者>

N=70



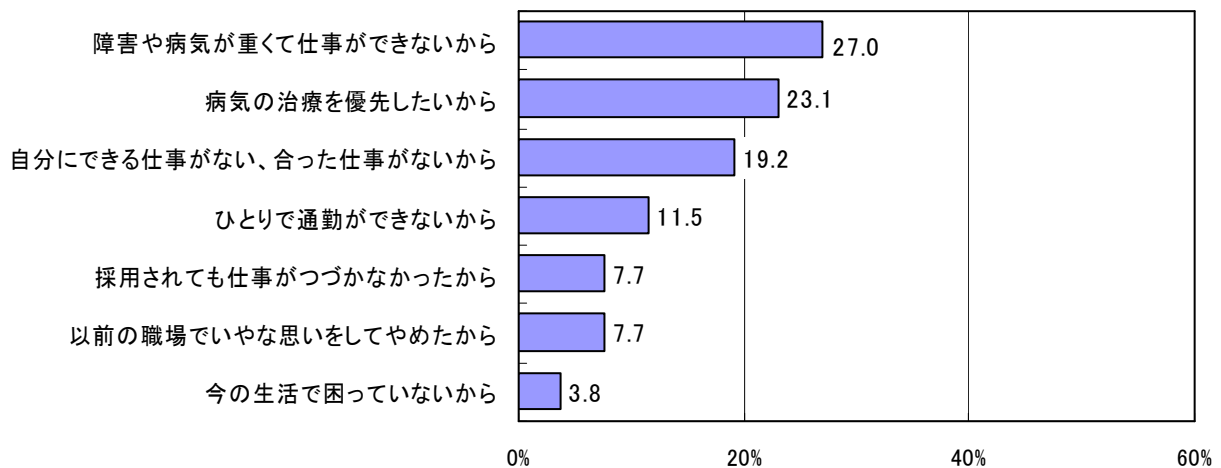
<知的障害者>

N=27



<精神障害者>

N=26

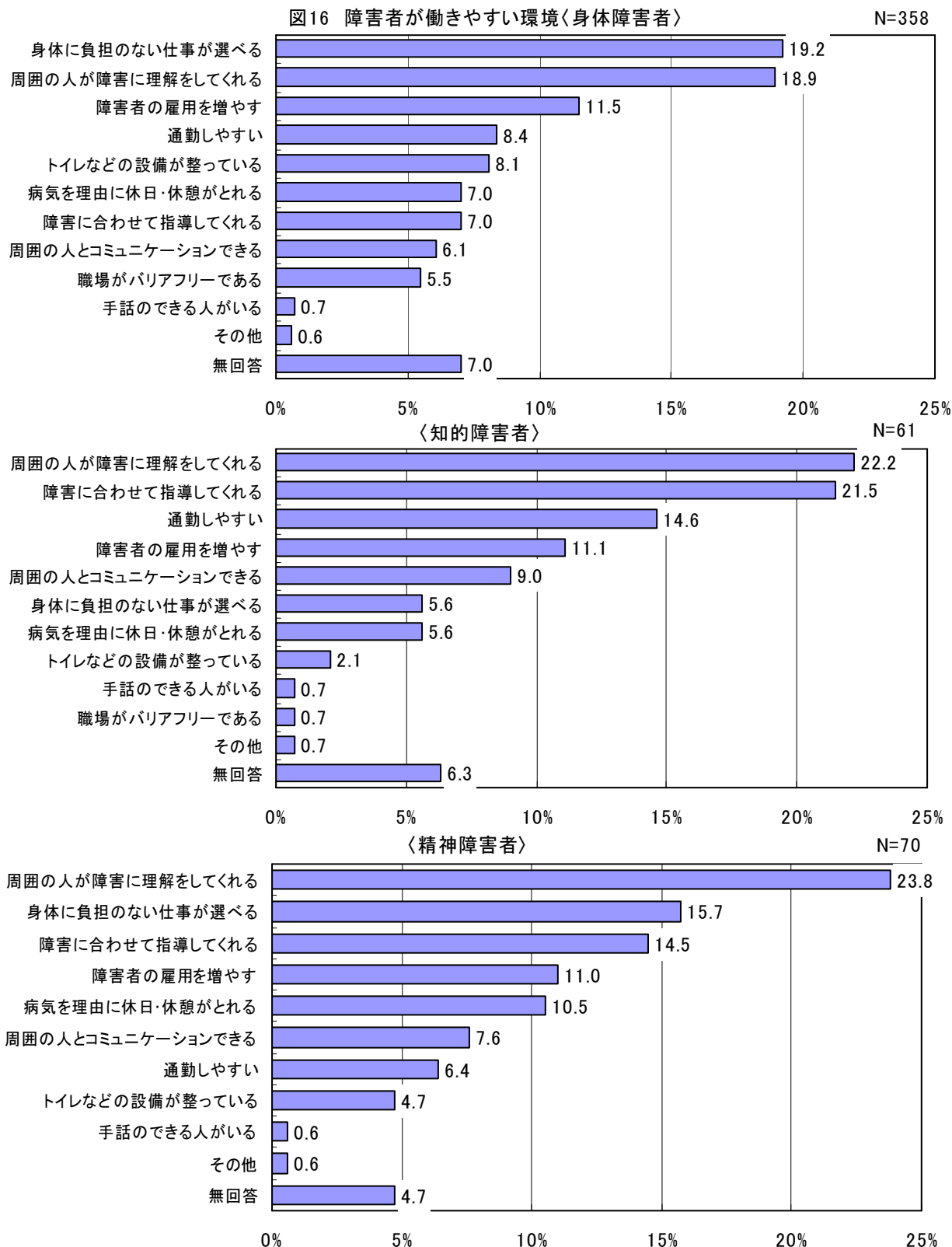


身体障害者の37.1%が「障害や病気が重くて仕事ができない」と回答しており、「自分にできる仕事がない、合った仕事がない」・「病気の治療を優先したい」が各15.7%となっている。

知的障害者は、51.9%が「障害や病気が重くて仕事ができない」、14.8%が「ひとりで通勤できない」、7.4%が「自分にできる仕事がない、合った仕事がない」と答えている。

精神障害者は、27.0%が「障害や病気が重くて仕事ができない」、23.1%が「病気の治療を優先したい」、19.2%が「自分にできる仕事がない、合った仕事がない」と答えている。

(4) 障害者の就労に必要な環境



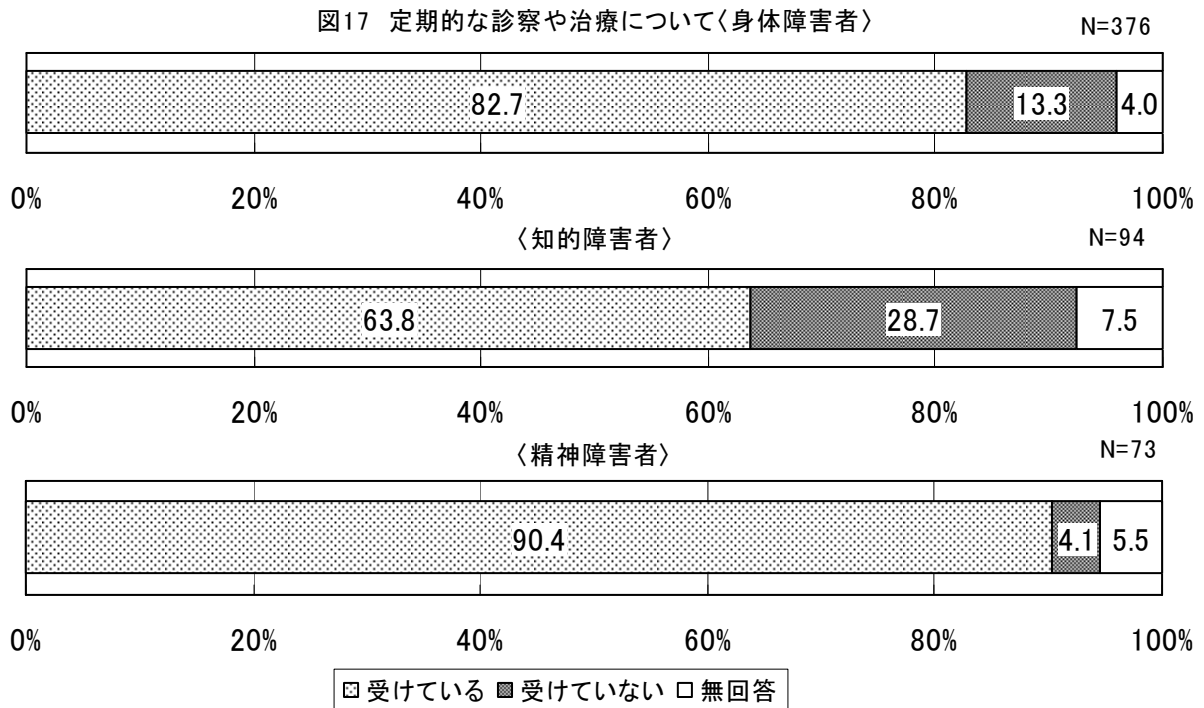
障害者が働きやすい環境として、身体障害者の19.2%が「身体に負担のない仕事を選べる」と回答しており、続いて「周囲の人が障害に理解をしてくれる」が18.9%、「障害者の雇用を増やす」が11.5%となっている。

知的障害者は、「周囲の人が障害に理解をしてくれる」が22.2%、「障害に合わせて指導してくれる」が21.5%、「通勤しやすい」が14.6%となっている。

精神障害者は、「周囲の人が障害に理解をしてくれる」が23.8%、「身体に負担のない仕事を選べる」が15.7%、「障害に合わせて指導してくれる」が14.5%となっている。

5 医療・保健について ※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

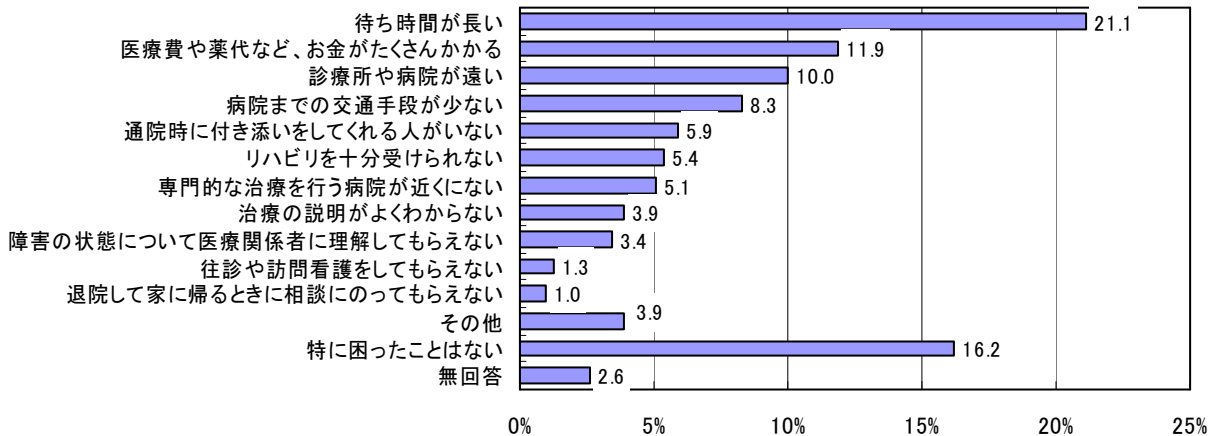
(1) 現在の受診状況について



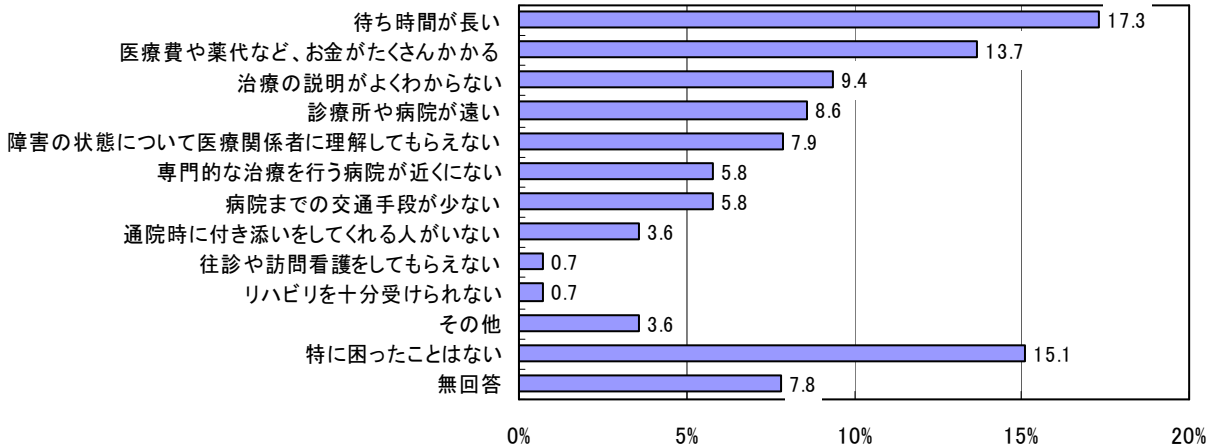
身体障害者の82.7%、知的障害者の63.8%、精神障害者の90.4%が、現在、定期的に診察・治療を受けている。

(2) 医療について困っていること

表18 医療について困っていること〈身体障害者〉 N=376

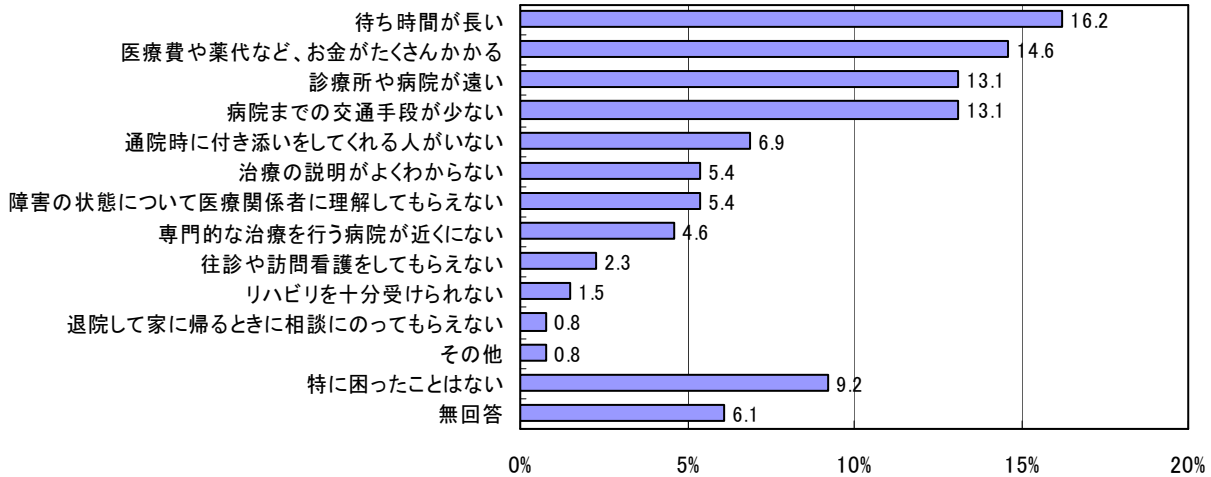


〈知的障害者〉 N=94



〈精神障害者〉

N=73



医療について困っていることとして、身体障害者は「待ち時間が長い」が 21.1%、「医療費や薬代など、お金がたくさんかかる」が 11.9%、「診療所や病院が遠い」が 10.0%となっている。

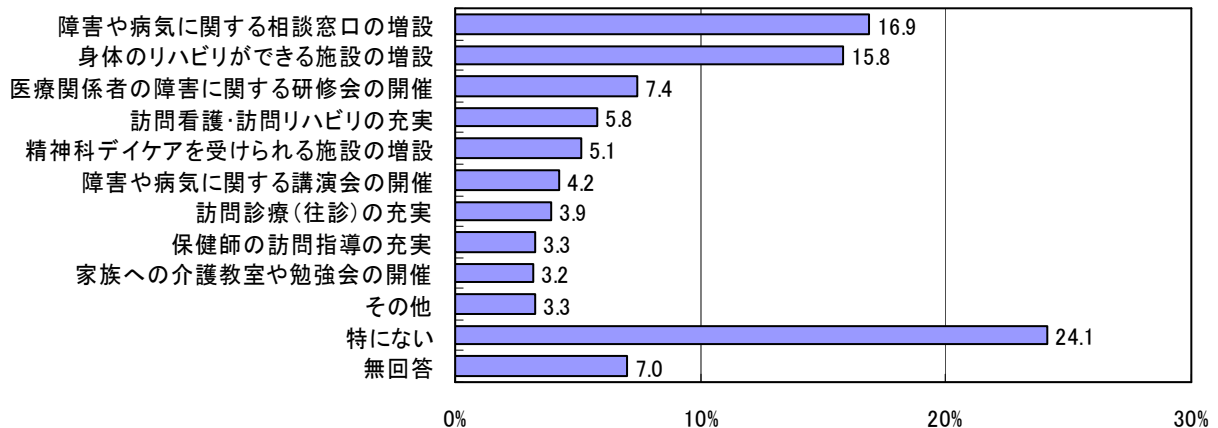
知的障害者は「待ち時間が長い」が 17.3%、「医療費や薬代など、お金がたくさんかかる」が 13.7%、「治療の説明がよくわからない」が 9.4%となっている。

精神障害者は「待ち時間が長い」が 16.2%、「医療費や薬代など、お金がたくさんかかる」が 14.6%、「診療所や病院が遠い」・「病院までの交通手段が少ない」が各 13.1%となっている。

(3) 医療や保健について望むこと

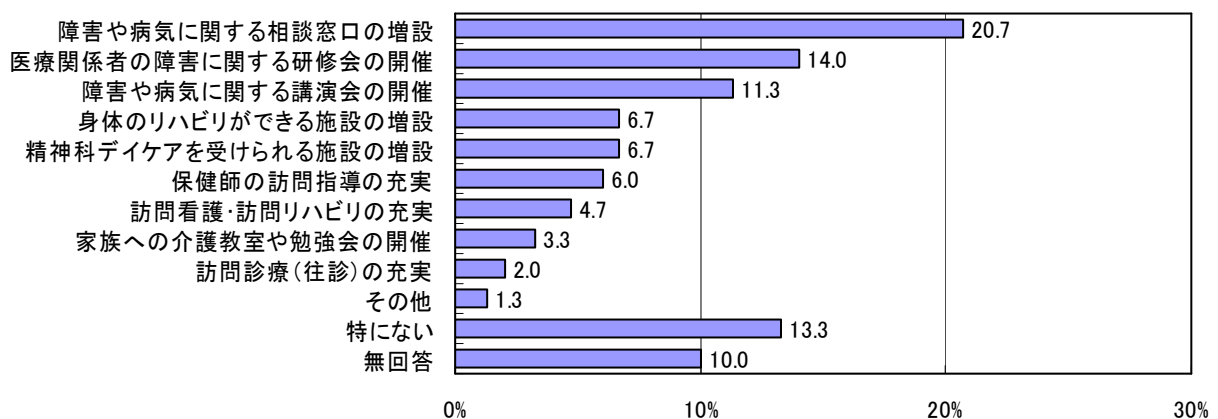
図19 医療や保健に対して望むこと〈身体障害者〉

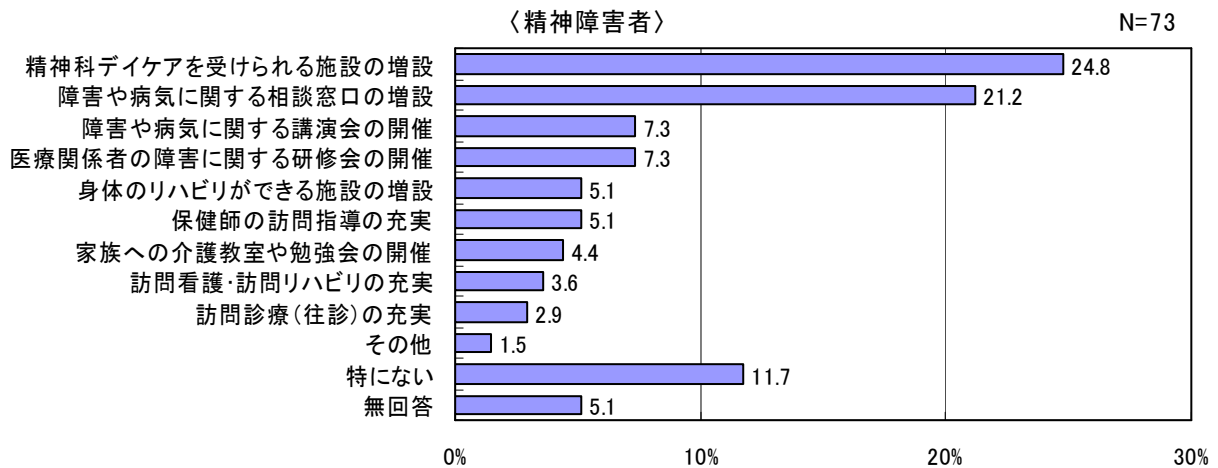
N=376



〈知的障害者〉

N=94





医療や保健に対して望むこととして、身体障害者は 16.9%が「障害や病気に関する相談窓口を増やしてほしい」としており、続いて「身体のリハビリができる施設を増やしてほしい」が 15.8%、「医療関係者への障害に関する研修会を増やしてほしい」が 7.4%となっている。

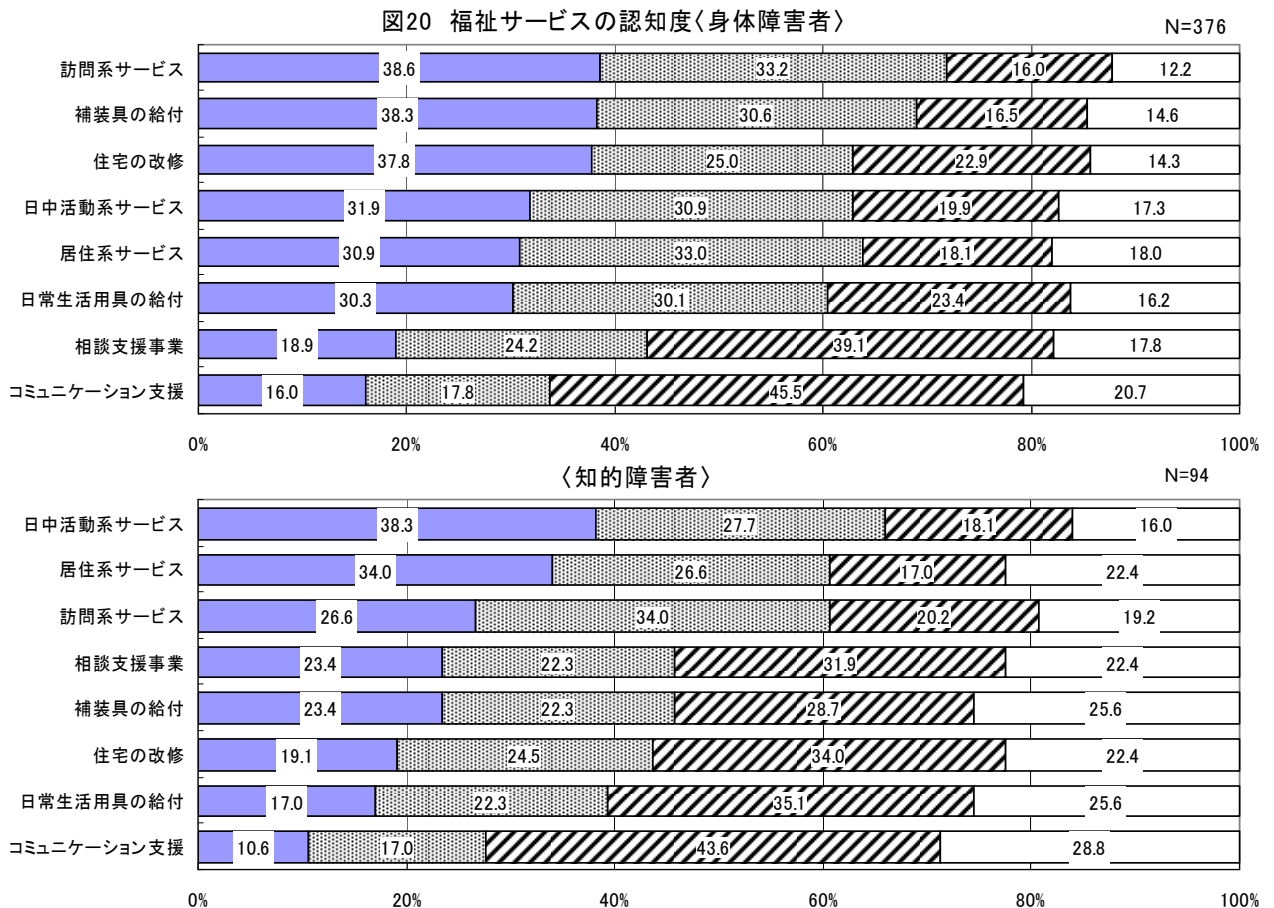
知的障害者は、「障害や病気に関する相談窓口を増やしてほしい」が 20.7%、「医療関係者への障害に関する研修会を増やしてほしい」が 14.0%、「障害や病気に関する講演会を開催してほしい」が 11.3%となっている。

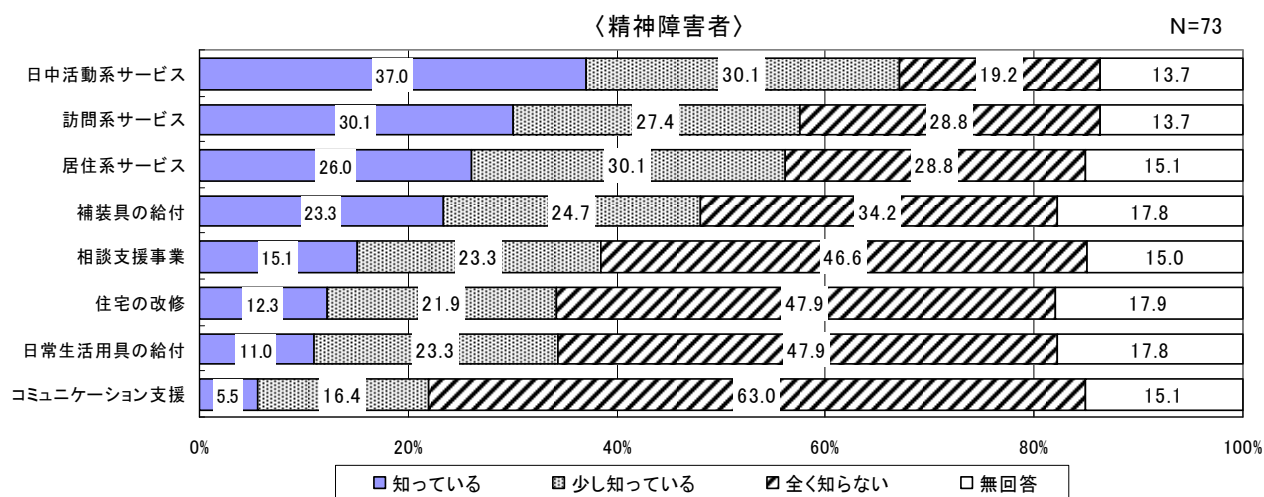
精神障害者は、「精神科デイケアを受けられる施設を増やしてほしい」が 24.8%、「障害や病気に関する相談窓口を増やしてほしい」が 21.2%、「医療関係者への障害に関する研修会を増やしてほしい」・「障害や病気に関する講演会を開催してほしい」が各 7.3%となっている。

一方で、身体障害者の 24.1%、知的障害者の 13.3%、精神障害者の 11.7%は、「(望むことは)特にない」と回答している。

6 障害福祉サービスについて ※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

(1) 各福祉サービスの認知度



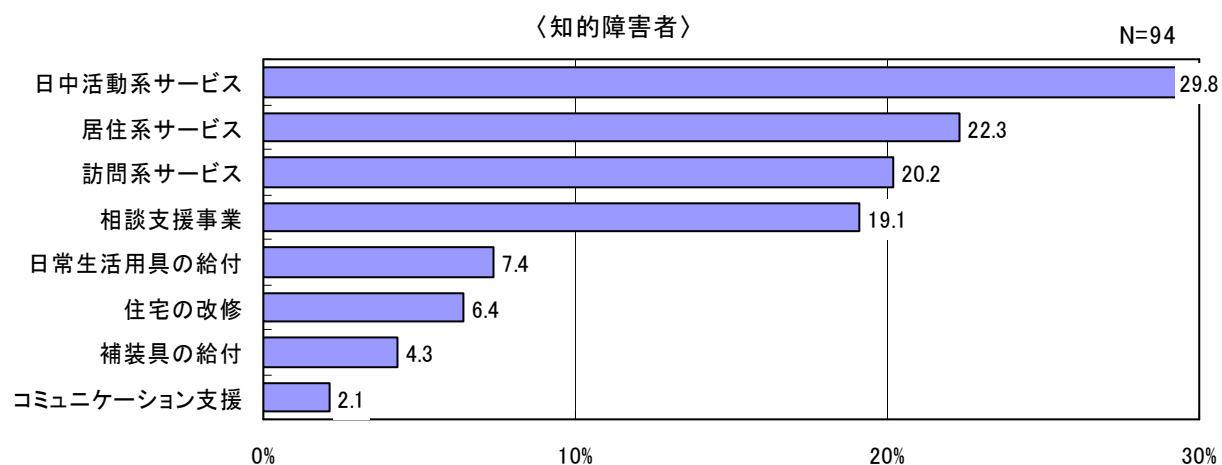
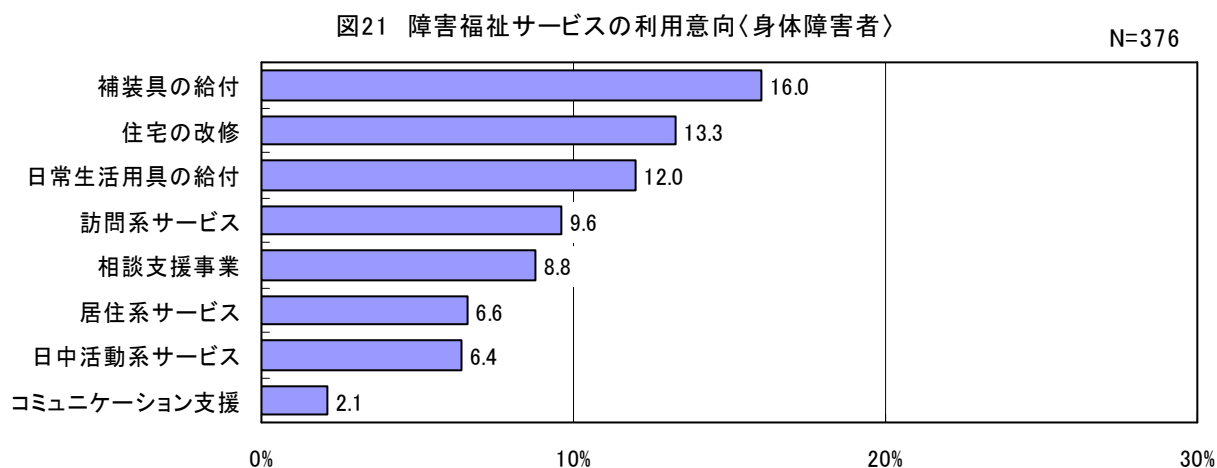


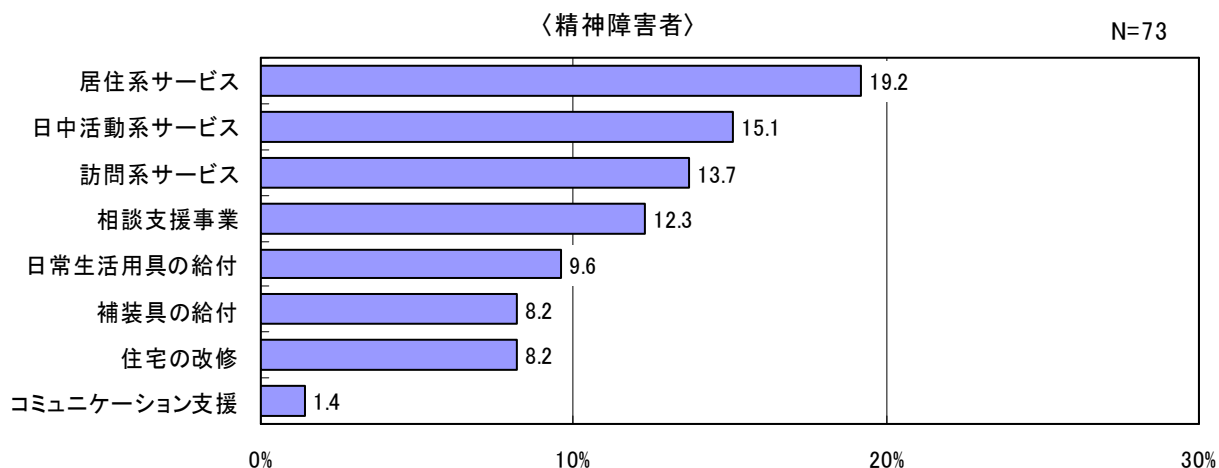
障害福祉サービスについての認知度は、身体障害者においては、「訪問系サービス」が38.6%、「補装具の給付」が38.3%、「住宅の改修」が37.8%となっている。

知的障害者においては、「日中活動系サービス」が38.3%、「居住系サービス」が34.0%、「訪問系サービス」が26.6%となっている。

精神障害者においては、「日中活動系サービス」が37.0%、「訪問系サービス」が30.1%、「居住系サービス」が26.0%となっている。

(2) 福祉サービスの利用意向



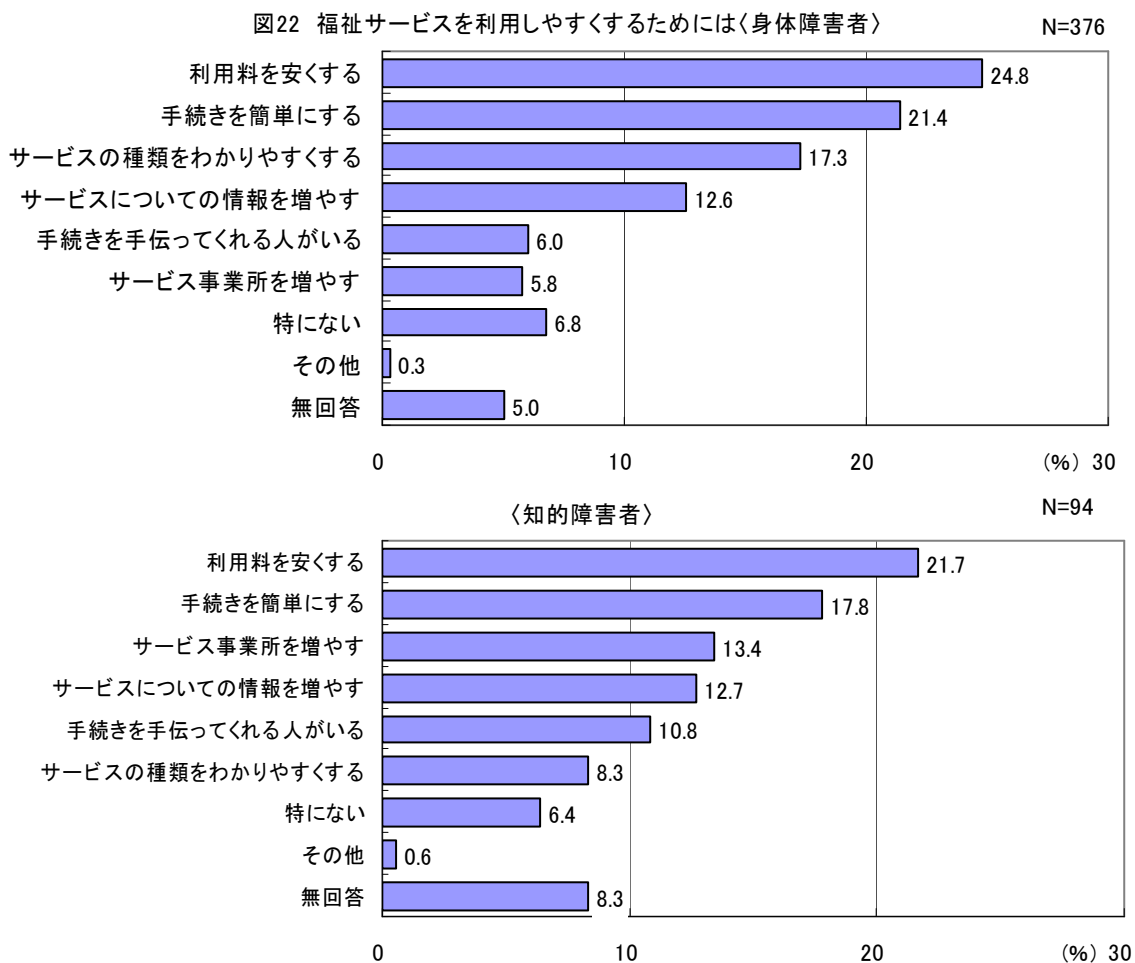


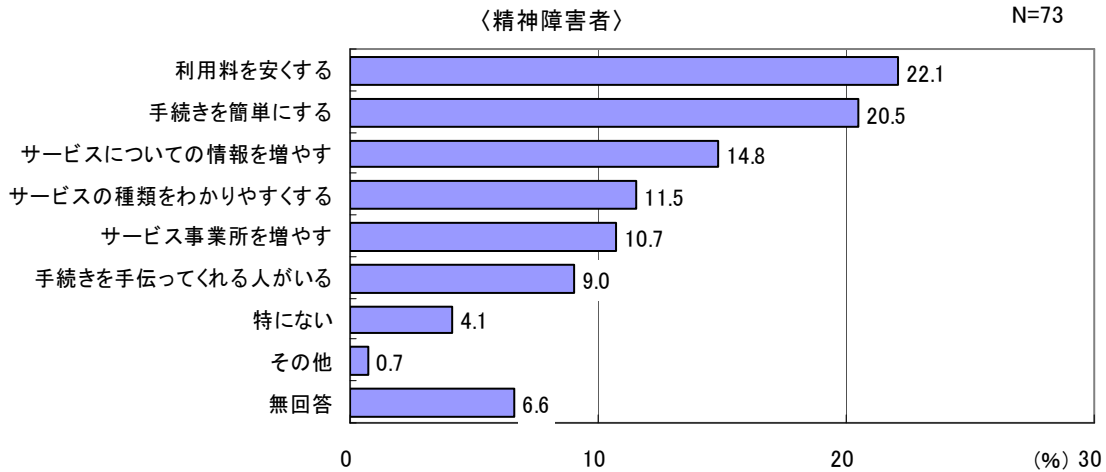
今後、利用したい福祉サービスとして、身体障害者は「補装具の給付」が 16.0%、「住宅の改修」が 13.3%、「日常生活用具の給付」が 12.0%となっている。

知的障害者においては、「日中活動系サービス」が 29.8%、「居住系サービス」が 22.3%、「訪問系サービス」が 20.2%となっている。

精神障害者においては、「居住系サービス」が 19.2%、「日中活動系サービス」が 15.1%、「訪問系サービス」が 13.7%となっている。

(3) 福祉サービスを利用しやすくするためには





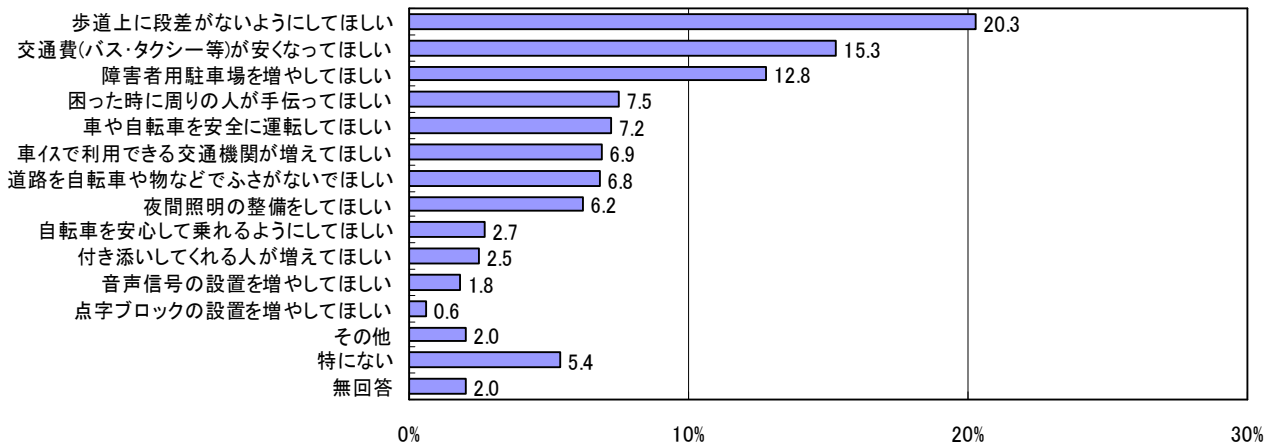
福祉サービスを利用しやすくするためには、「利用料を安くする」が3障害とも一番多く、次に「手続きを簡単にする」が続いている。

以下、身体障害者は「サービスの種類をわかりやすくする」(17.3%)、「サービスについて情報を増やす」(12.6%)が続く、知的障害者は「サービス事業所を増やす」(13.4%)、「サービスについて情報を増やす」(12.7%)、精神障害者は「サービスについて情報を増やす」(14.8%)、「サービスの種類をわかりやすくする」(11.5%)の順となっている。

7 外出の時に良くなってほしいこと ※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

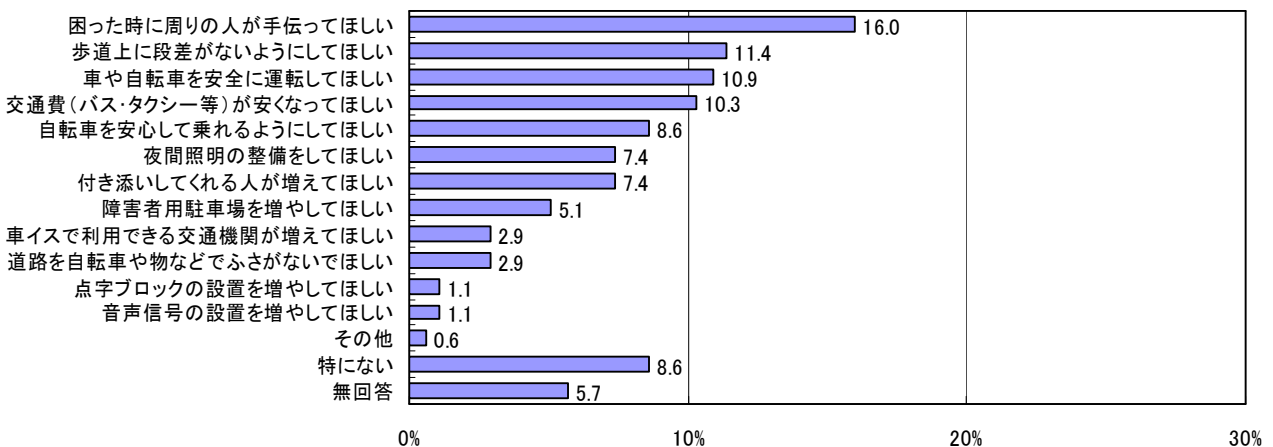
図23 外出のときに、良くなってほしいと思うこと〈身体障害者〉

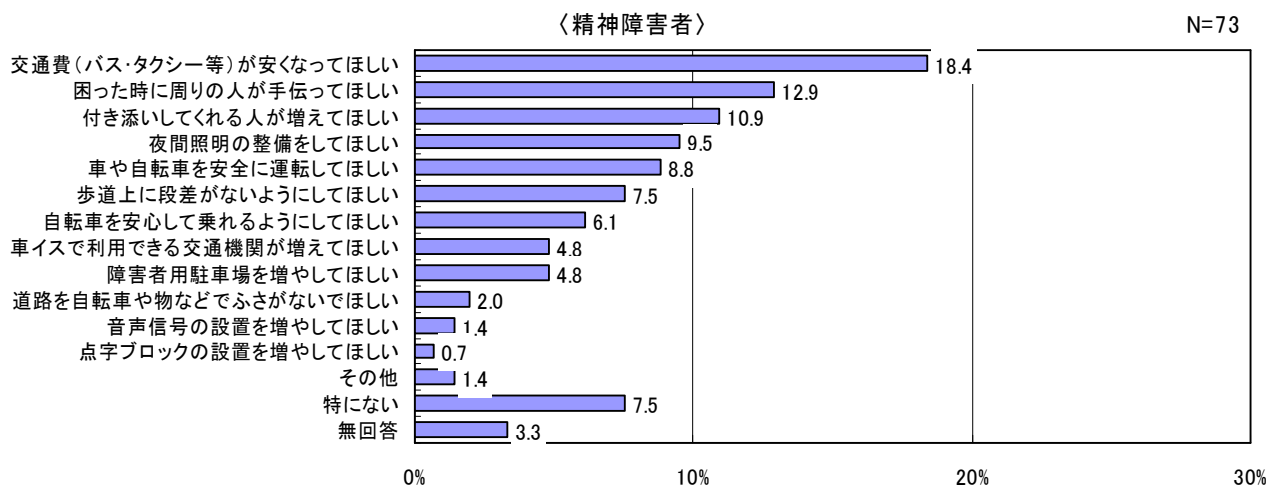
N=376



〈知的障害者〉

N=94





外出時において、身体障害者は、「歩道上に段差がないようにしてほしい」が 20.3%、「交通費(バス・タクシーなど)が安くなってほしい」が 15.3%、「障害者用駐車場を増やしてほしい」が 12.8%となっている。

知的障害者は、「困った時に周りの人が手伝ってほしい」が 16.0%、「歩道上に段差がないようにしてほしい」が 11.4%、「車や自転車を安全に運転してほしい」が 10.9%となっている。

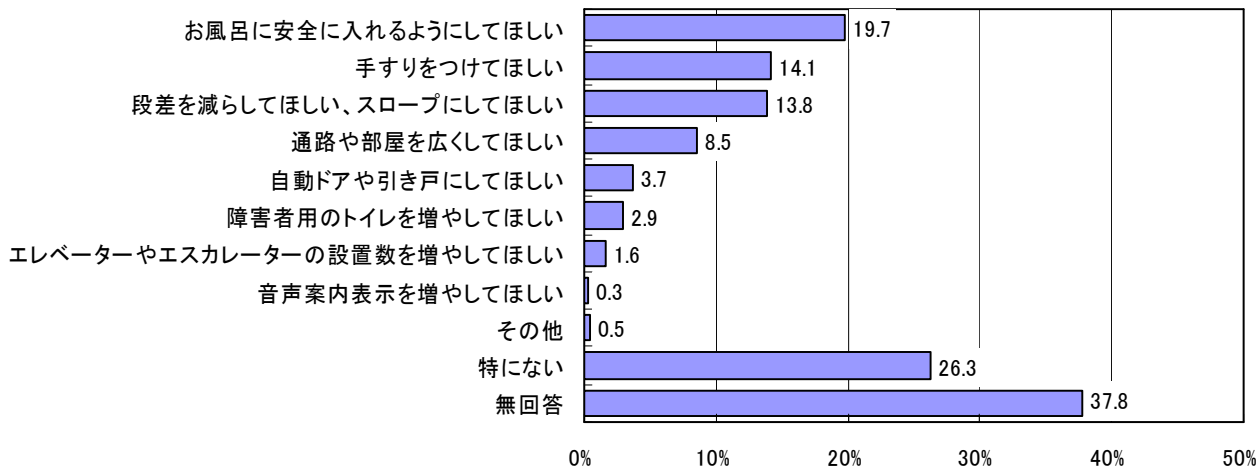
精神障害者は、「交通費(バス・タクシーなど)が安くなってほしい」が 18.4%、「困った時に周りの人が手伝ってほしい」が 12.9%、「付き添いしてくれる人が増えてほしい」が 10.9%となっている。

8 建物の環境について ※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

(1) 「今住んでいる家」で改良したい所

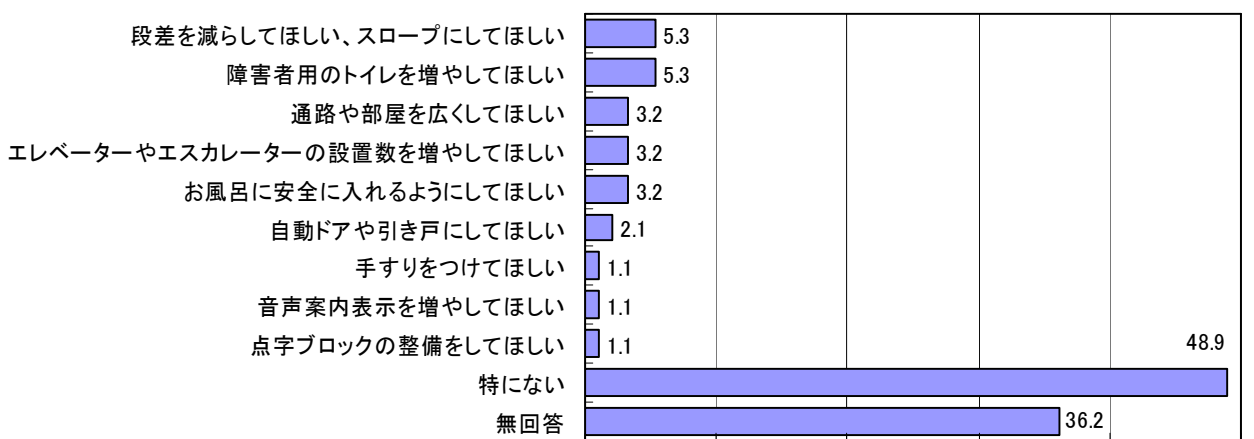
図24 「今住んでいる家」で改良したい所〈身体障害者〉

N=376



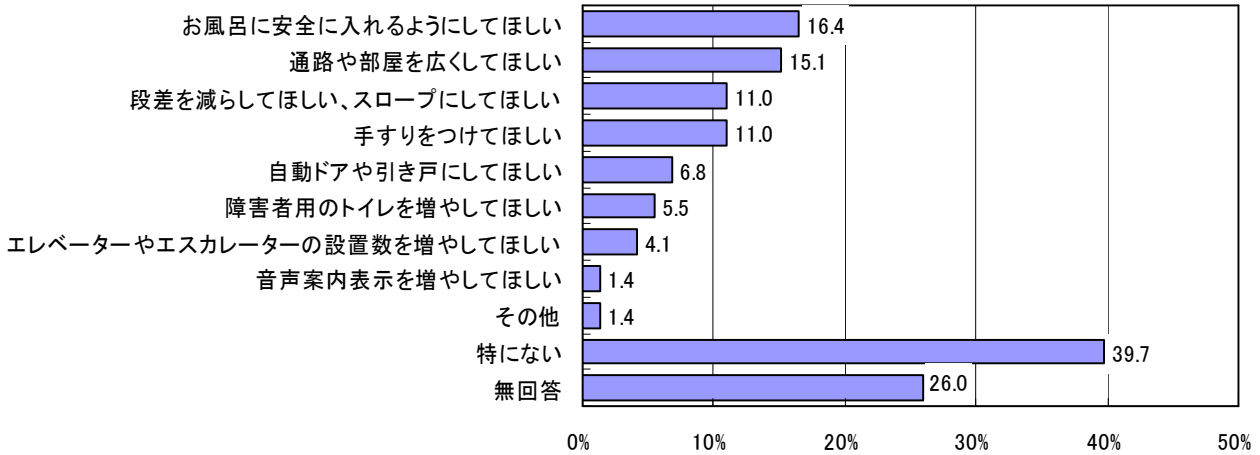
〈知的障害者〉

N=94



〈精神障害者〉

N=73



身体障害者は、「お風呂に安全に入れるようにしてほしい」が 19.7%、「手すりをつけてほしい」が 14.1%、「段差を減らしてほしい、スロープにしてほしい」が 13.8%となっている。

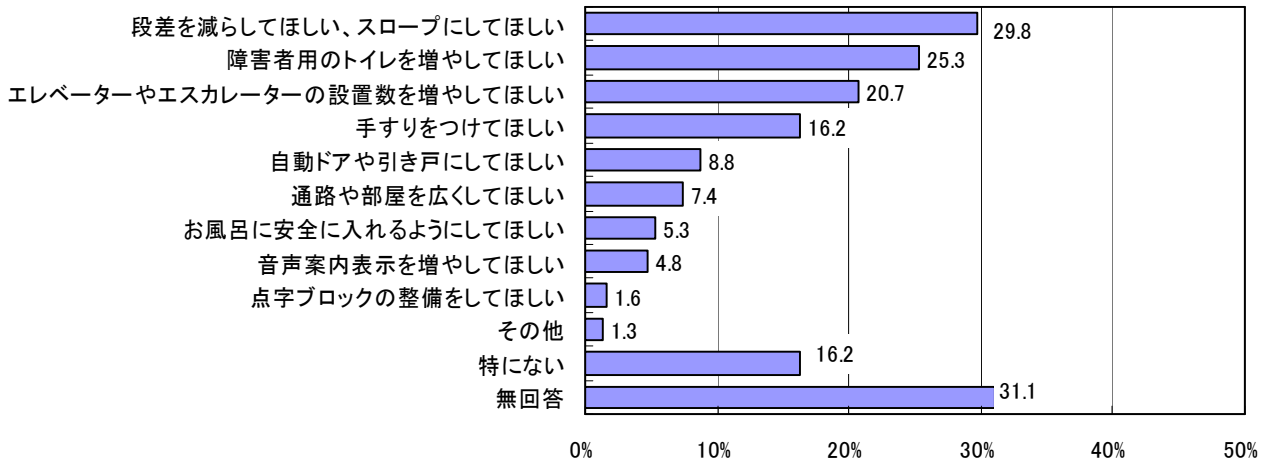
知的障害者は、「段差を減らしてほしい、スロープにしてほしい」が 5.3%、「障害者用のトイレを増やしてほしい」が 5.3%、「通路や部屋を広くしてほしい」・「エレベーターやエスカレーターの設置数を増やしてほしい」・「お風呂に安全に入れるようにしてほしい」が各 3.2%となっている。

精神障害者は、「お風呂に安全に入れるようにしてほしい」が 16.4%、「通路や部屋を広くしてほしい」が 15.1%、「段差を減らしてほしい、スロープにほしい」・「手すりをつけてほしい」が各 11.0%となっている。

(2) 「公共の施設」で改良したい所

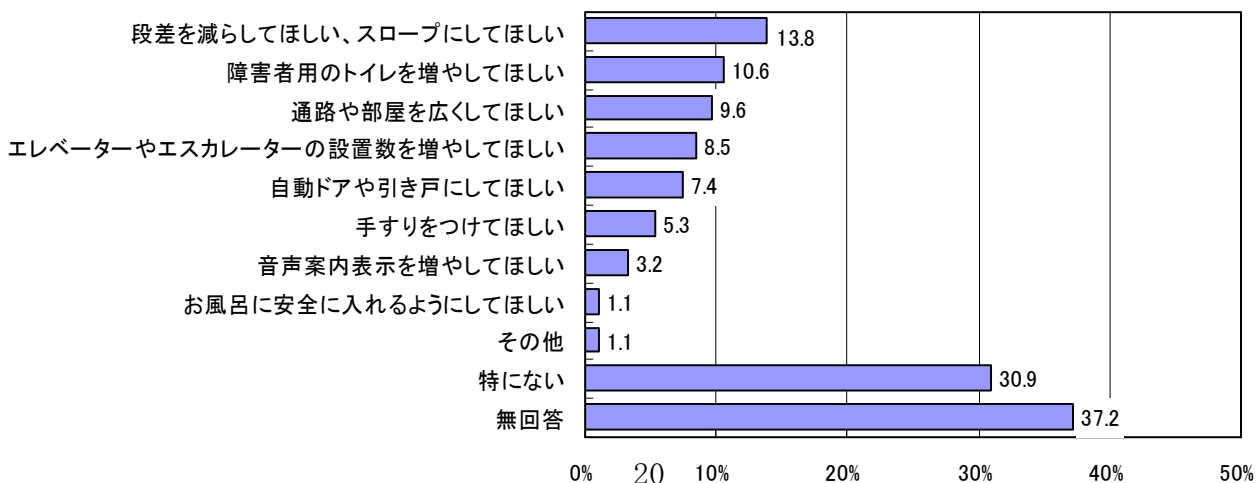
図25 「公共の施設」で改良してほしい所〈身体障害者〉

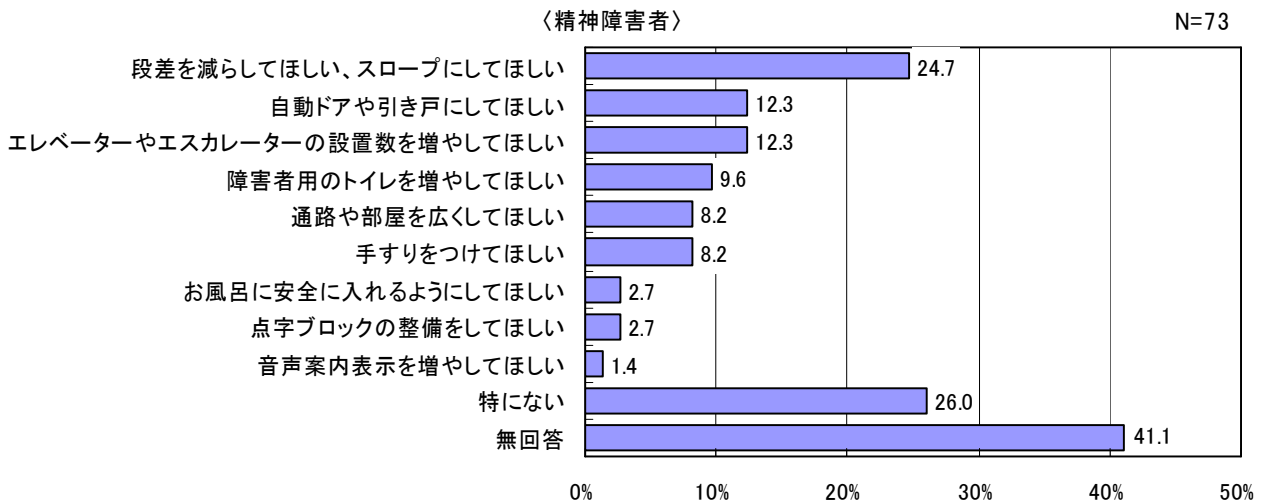
N=376



〈知的障害者〉

N=94





身体障害者は、「段差を減らしてほしい、スロープにほしい」が 29.8%、「障害者用のトイレを増やしてほしい」が 25.3%、「エレベーターやエスカレーターの設置数を増やしてほしい」が 20.7%となっている。

知的障害者は、「段差を減らしてほしい、スロープにほしい」が 13.8%、「障害者用のトイレを増やしてほしい」が 10.6%、「通路や部屋を広くしてほしい」が 9.6%となっている。

精神障害者は、「段差を減らしてほしい、スロープにほしい」が 24.7%、「自動ドアや引き戸にほしい」・「エレベーターやエスカレーターの設置数を増やしてほしい」が各 12.3%となっている。

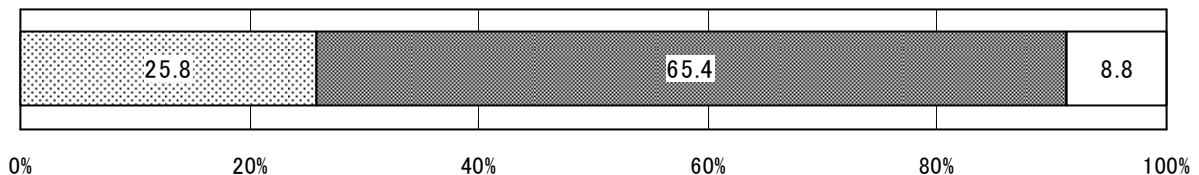
9 災害について ※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

(1) 市の「災害時要援護者支援制度」について

①制度の認知度

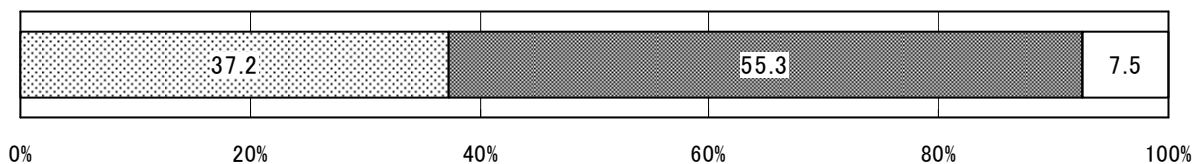
図26 市の「災害時要援護者支援事業」について〈身体障害者〉

N=376



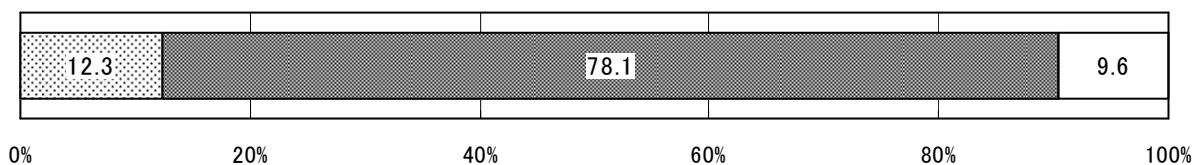
〈知的障害者〉

N=94



〈精神障害者〉

N=73

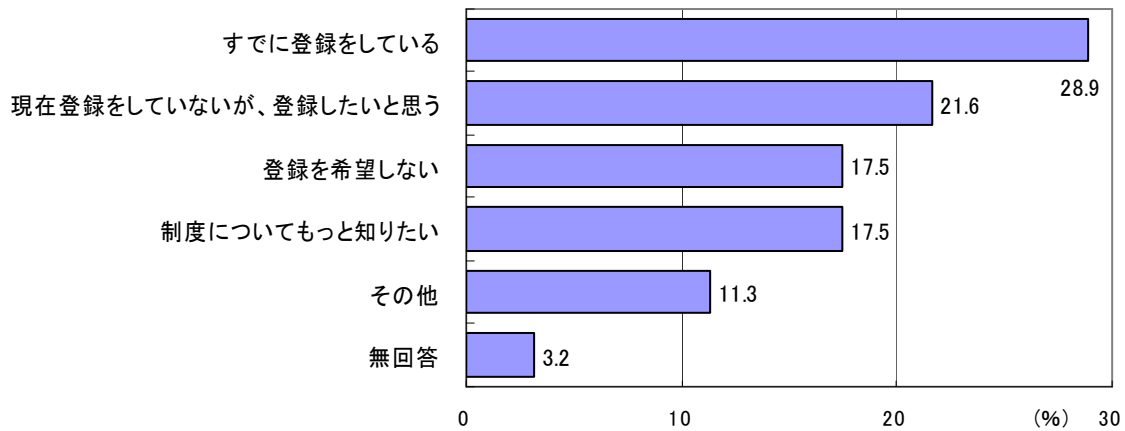


□ 知っている ■ 知らない □ 無回答

制度について「知っている」が、身体障害者で25.8%、知的障害者で37.2%、精神障害者で12.3%となっている。一方、「知らない」は、身体障害者で65.4%、知的障害者で55.3%、精神障害者で78.1%となっている。

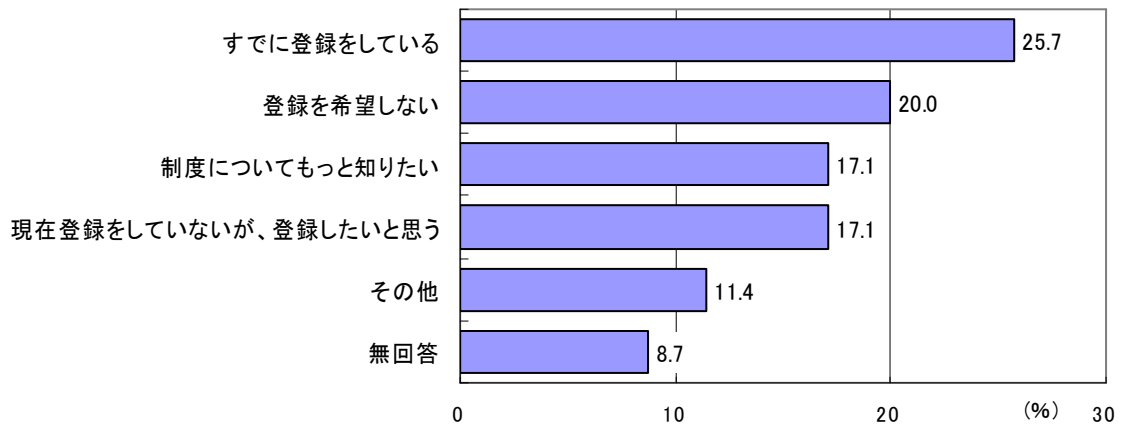
表26-1 制度への関心〈身体障害者〉

N=97



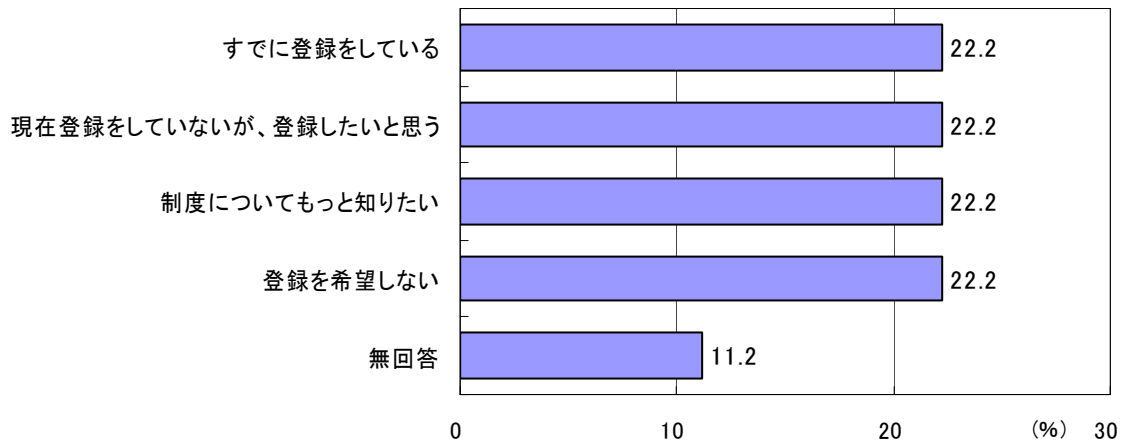
〈知的障害者〉

N=35



〈精神障害者〉

N=9

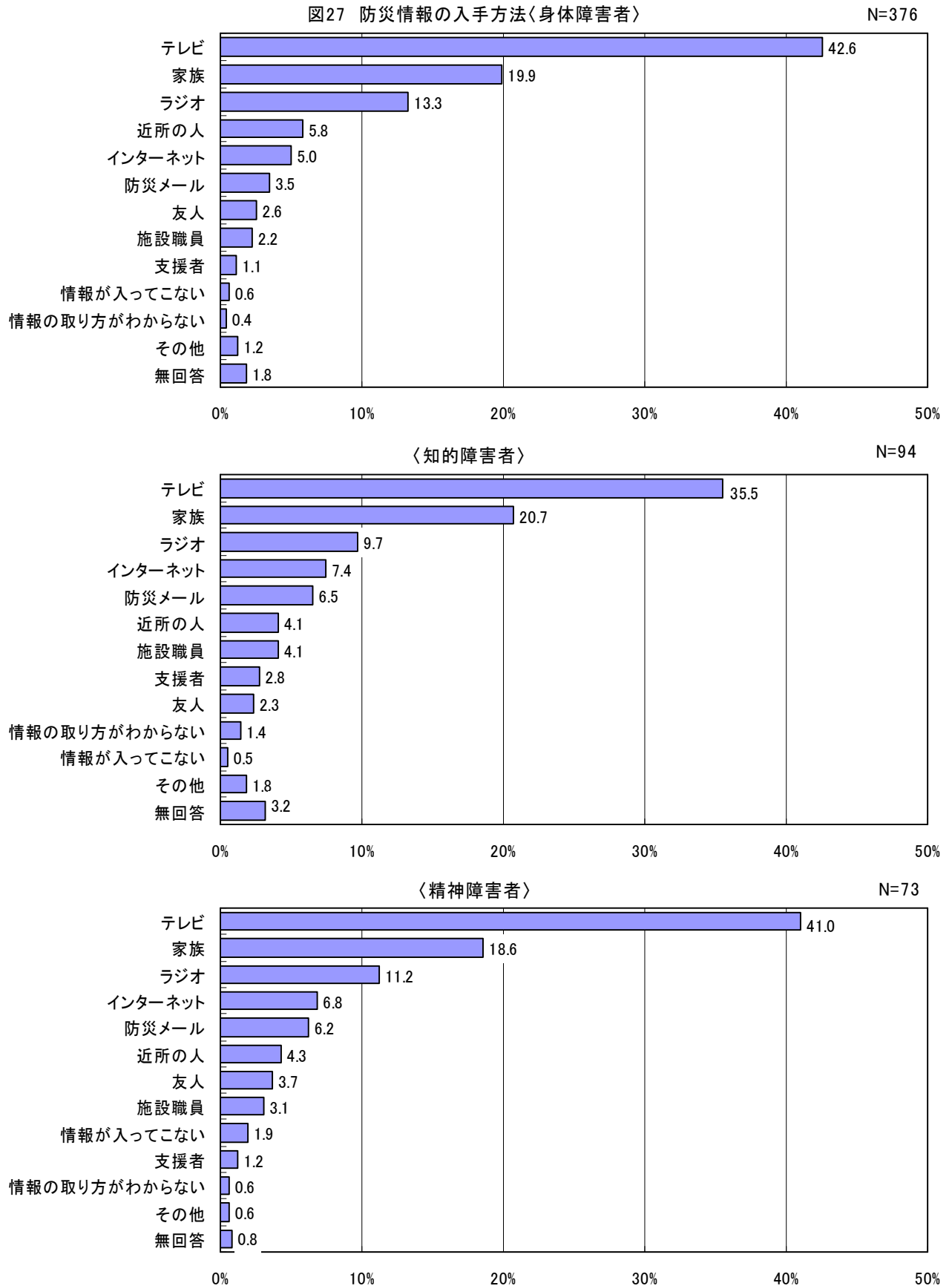


制度を「知っている」と回答した人のうち、身体障害者の28.9%が「すでに登録している」、21.6%が「現在登録をしていないが、登録したいと思う」としており、「登録を希望しない」・「制度についてもっと知りたい」が各17.5%となっている。

知的障害者は、25.7%が「すでに登録している」、20.0%が「登録を希望しない」、17.1%が「現在登録をしていないが、登録したいと思う」、17.1%が「制度についてもっと知りたい」となっている。

精神障害者は、「すでに登録している」、「現在登録をしていないが、登録したいと思う」、「制度についてもっと知りたい」、「登録を希望しない」が全て同率で22.2%となっている。

(2) 防災情報の入手手段について

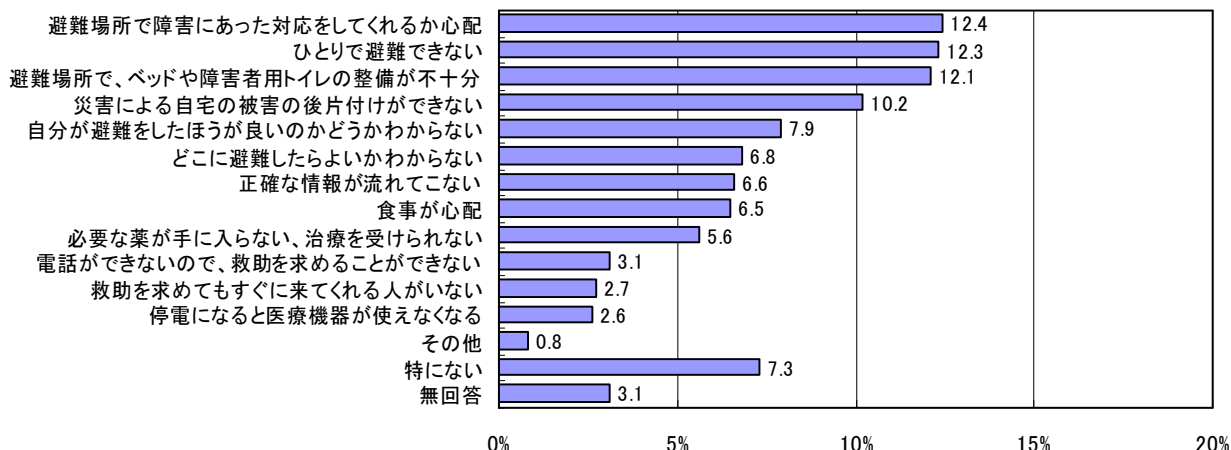


3障害とも、「テレビ」から情報を得る割合が高く、次に「家族」、「ラジオ」の順で続いている。

(3) 台風や大雨など、災害が生じた時の心配な点として

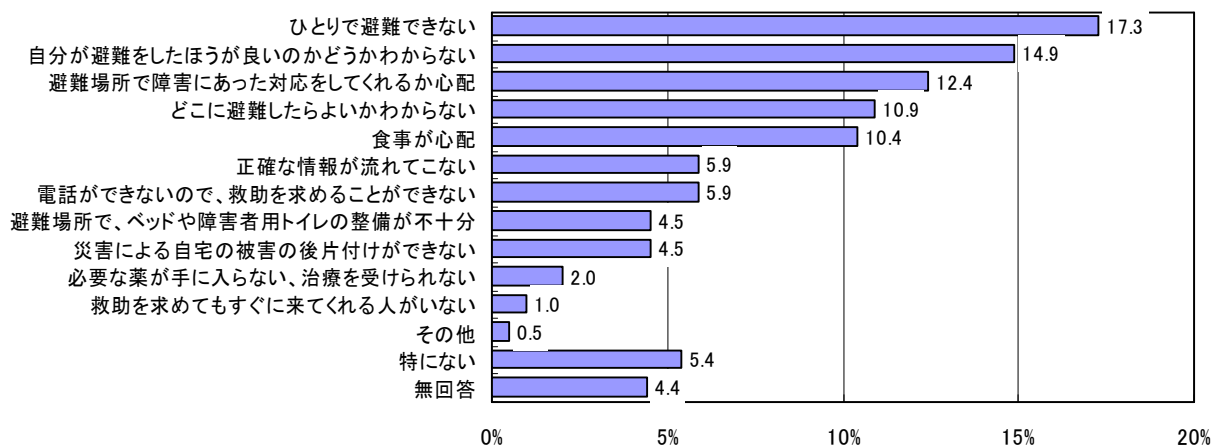
図28 災害が起きたときに心配なこと<身体障害者>

N=376



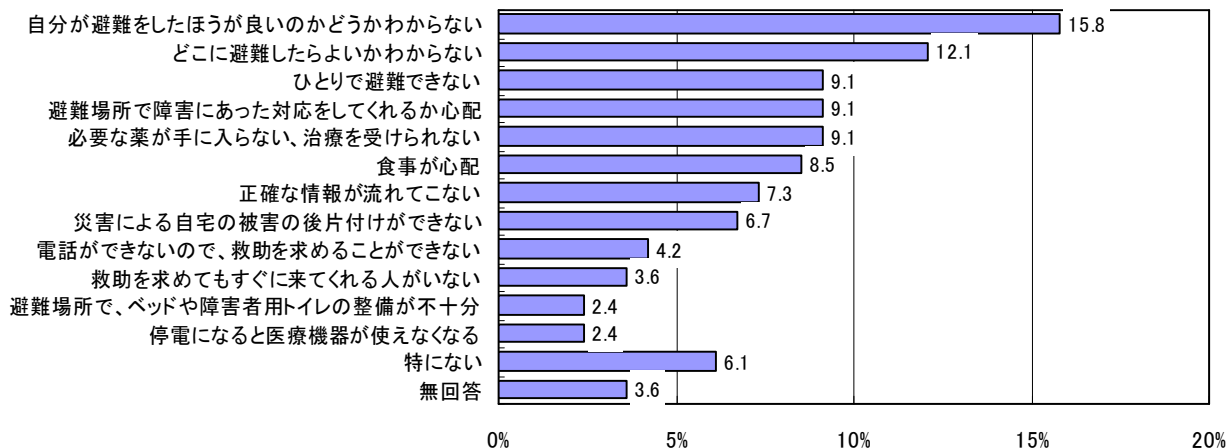
<知的障害者>

N=94



<精神障害者>

N=73



身体障害者は、「避難場所で障害にあった対応をしてくれるか心配」が 12.4%、「ひとりで避難できない」が 12.3%、「避難場所に行っても、ベッドや障害者用トイレの整備が不十分」が 12.1%となっている。

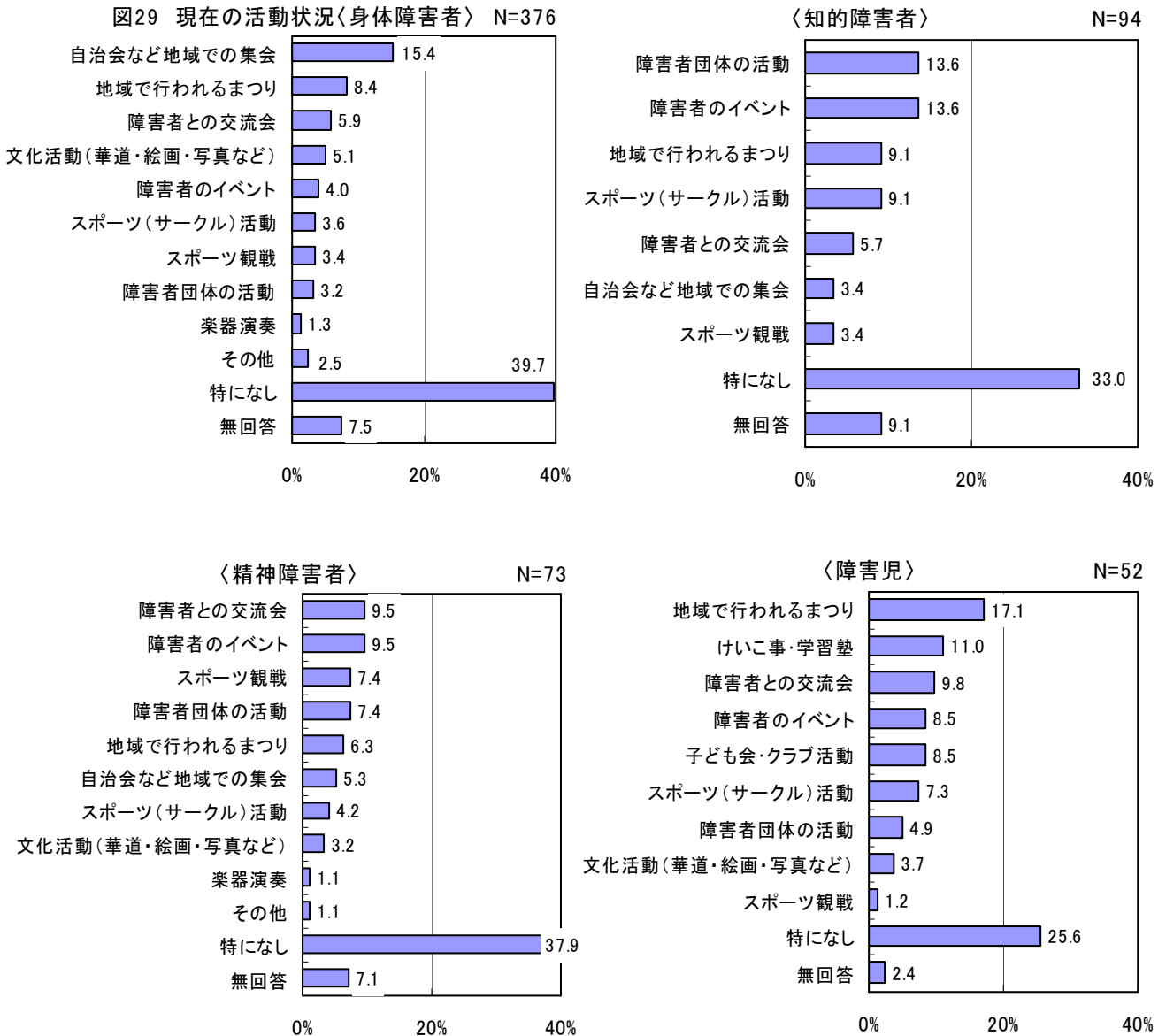
知的障害者は、「ひとりで避難できない」が 17.3%、「自分が避難したほうが良いのかわからない」が 14.9%、「避難場所で障害にあった対応をしてくれるか心配」が 12.4%となっている。

精神障害者は、「自分が避難したほうが良いのかわからない」が 15.8%、「どこに避難したらよいかわからない」が 12.1%、「ひとりで避難できない」、「避難場所で障害にあった対応をしてくれるか心配」、「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」が各 9.1%となっている。

10 社会参加の状況について

※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

(1) 現在の活動状況



身体障害者は、「自治会など地域での集会」が15.4%、「地域で行われるまつり」が8.4%、「障害者との交流会」が5.9%となっており、一方で「特になし(活動していない)」が39.7%となっている。

知的障害者は、「障害者団体の活動」・「障害者のイベント」が各13.6%、「地域で行われるまつり」・「スポーツ(サークル)活動」が各9.1%となっており、「特になし(活動していない)」が33.0%となっている。

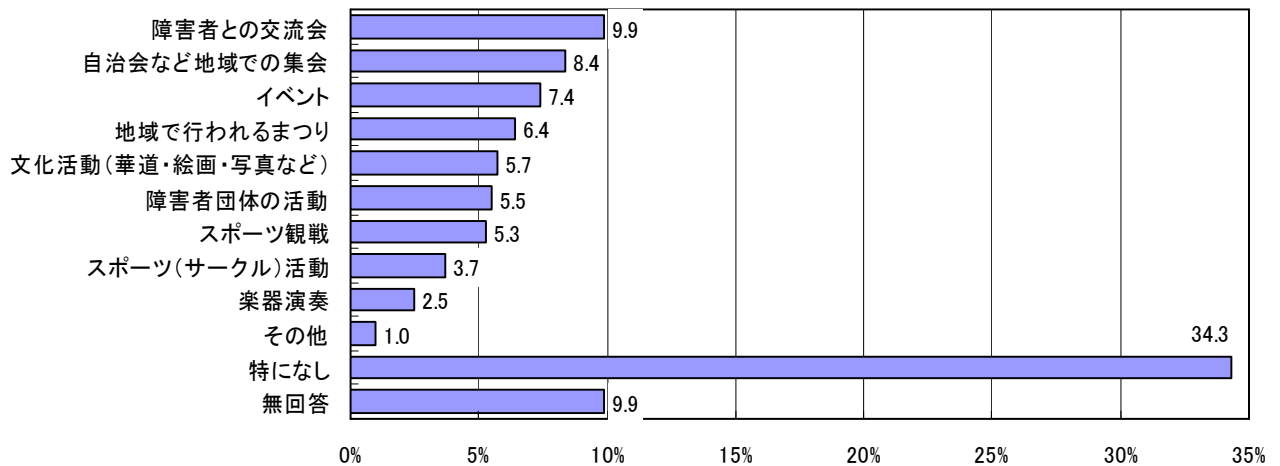
精神障害者は、「障害者との交流会」・「障害者のイベント」が各9.5%、「スポーツ観戦」・「障害者団体の活動」が各7.4%となっており、「特になし(活動していない)」が37.9%となっている。

また、障害児については、「地域で行われるまつり」が17.1%、「けいこ事・学習塾」が11.0%、「障害者との交流会」が9.8%となっており、「特になし(活動していない)」が25.6%となっている。

(2) どのような活動に参加してみたいか

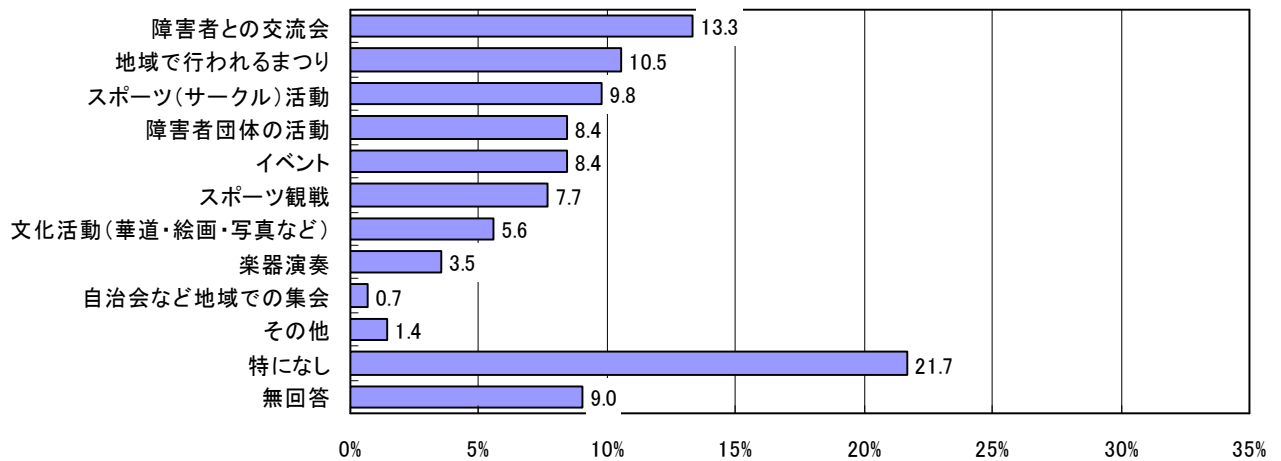
図30 どのような活動に参加してみたいか<身体障害者>

N=376



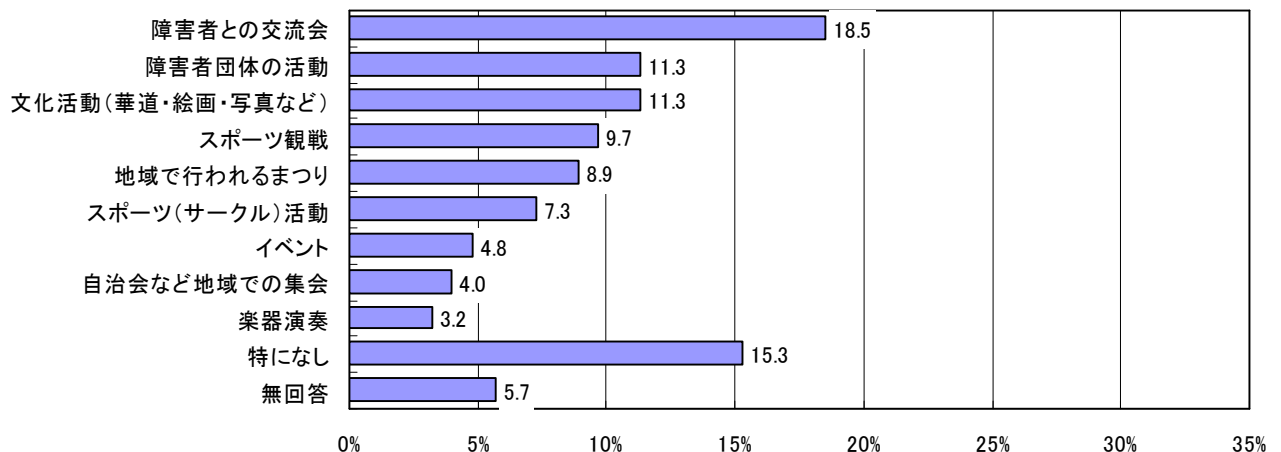
<知的障害者>

N=94



<精神障害者>

N=73



身体障害者は、「障害者との交流会」が 9.9%、「自治会など地域での集会」が 8.4%、「イベント」が 7.4%となっている一方で、34.3%が「特になし」と回答している。

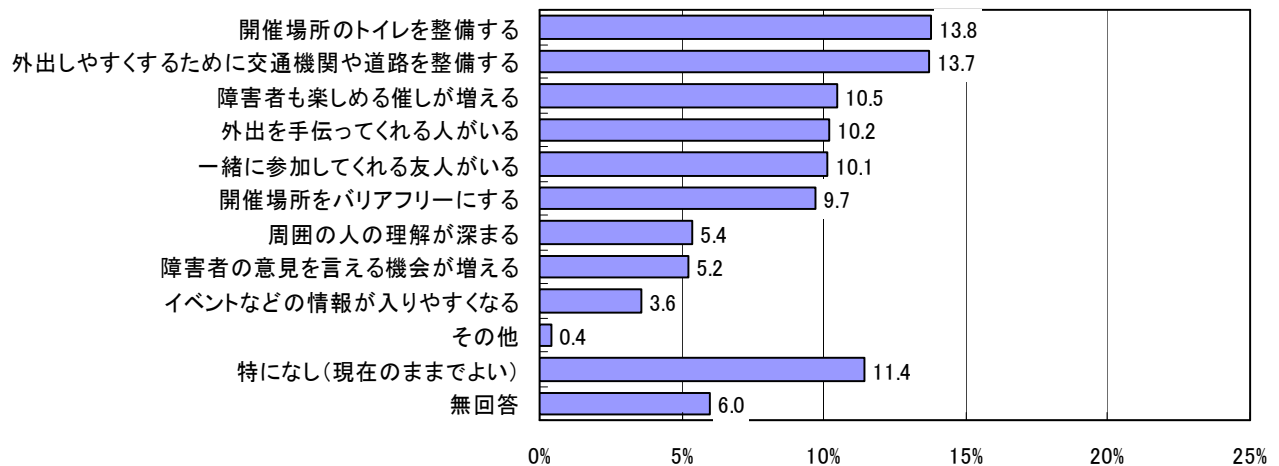
知的障害者は、「障害者との交流会」が 13.3%、「地域で行われるまつり」が 10.5%、「スポーツ(サークル)活動」が 9.8%となっている一方で、21.7%が「特になし」と答えている。

精神障害者は、「障害者との交流会」が 18.5%、「障害者団体の活動」・「文化活動(華道、絵画、写真等)」が各 11.3%、「特になし」が 15.3%となっている。

(3) 社会参加しやすい環境づくりについて

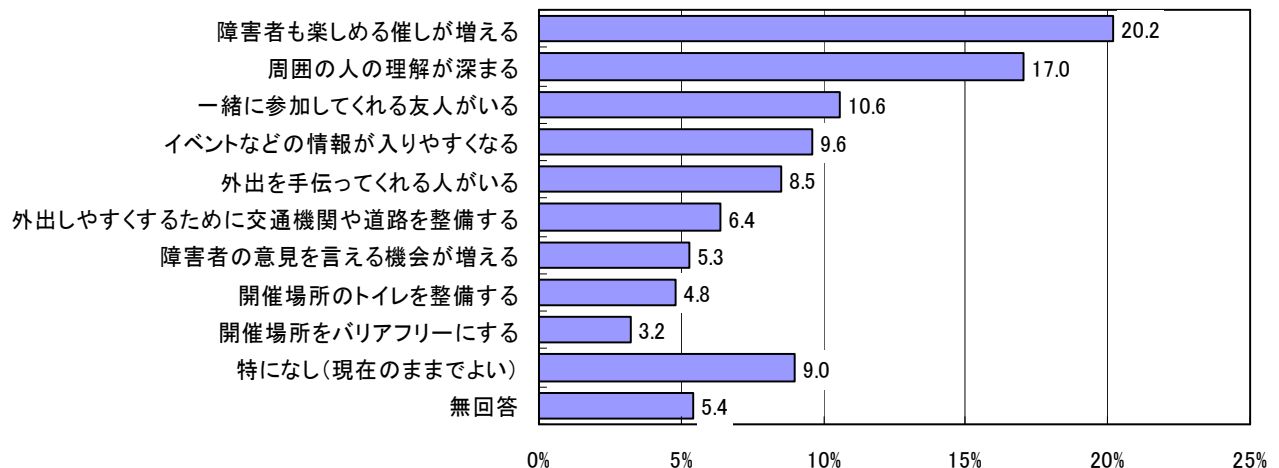
図31 社会参加しやすい環境〈身体障害者〉

N=376



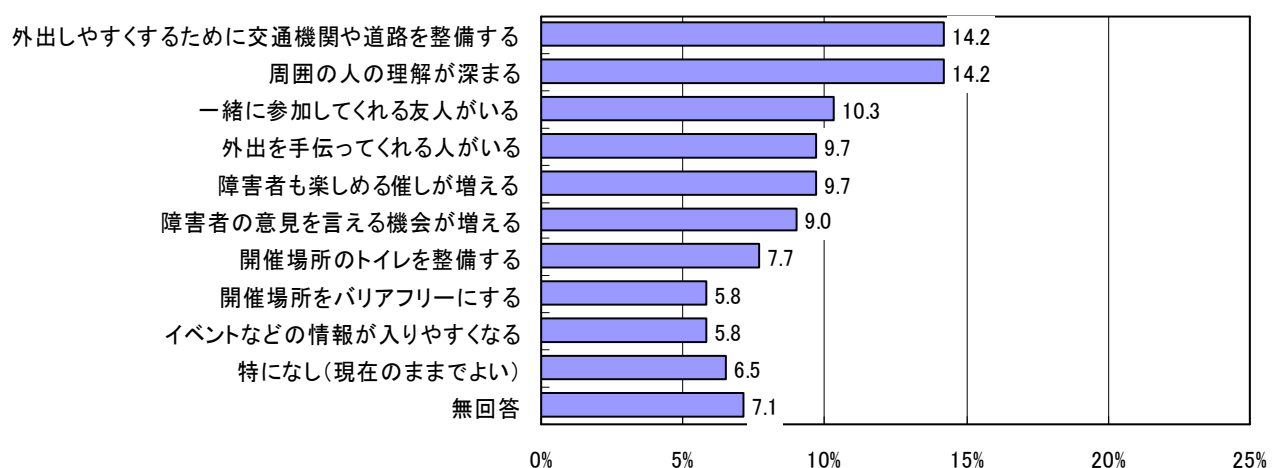
〈知的障害者〉

N=94



〈精神障害者〉

N=73



身体障害者は、「開催場所のトイレを整備する」が 13.8%、「外出しやすくするために交通機関や道路を整備する」が 13.7%、「障害者も楽しめる催しが増える」が 10.5%となっている。

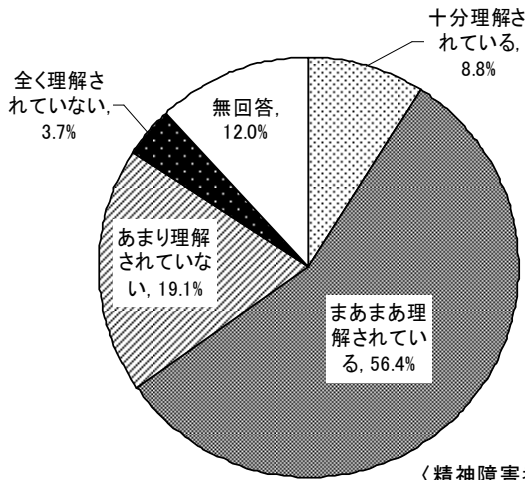
知的障害者は、「障害者も楽しめる催しが増える」が 20.2%、「周囲の人の理解が深まる」が 17.0%、「一緒に参加してくれる友人がいる」が 10.6%となっている。

精神障害者は、「外出しやすくするために交通機関や道路を整備する」・「周囲の人の理解が深まる」が各 14.2%、「一緒に参加してくれる友人がいる」10.3%となっている。

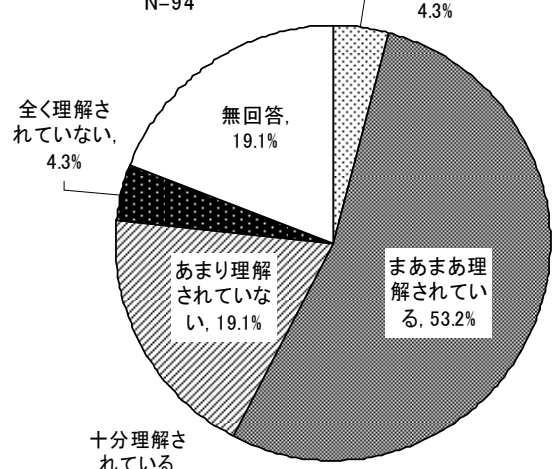
11 障害者に対する理解について ※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

(1) 障害があることについての周囲の理解について

図32 障害があることに対する周囲の理解
〈身体障害者〉 N=376



〈知的障害者〉 N=94



〈精神障害者〉 N=73

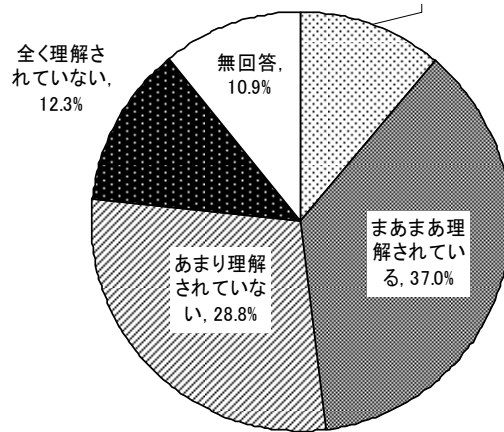
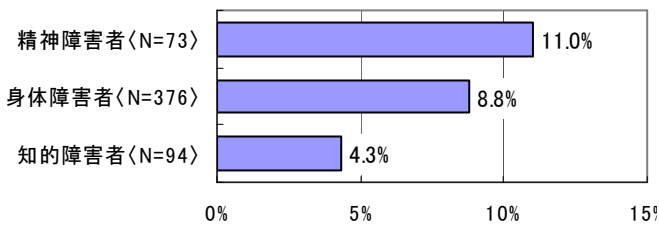
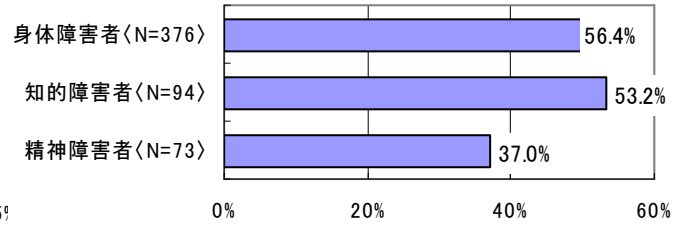


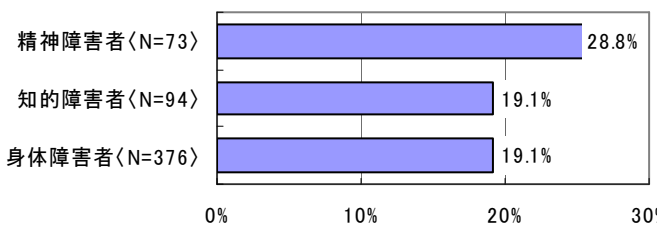
図32-1 「十分理解されている」と感じている



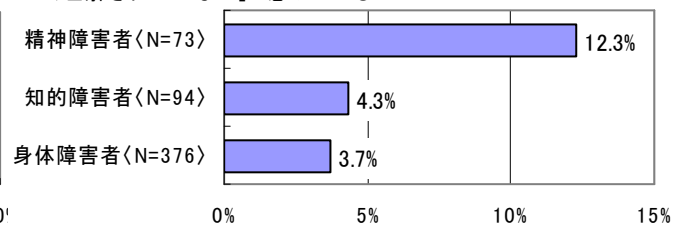
「まあまあ理解されている」と感じている



「あまり理解されていない」と感じている



「全く理解されていない」と感じている



身体障害者は、「十分理解されている」(8.8%)と「まあまあ理解されている」(56.4%)を合わせて、65.2%が「理解されている」と回答している。

知的障害者は、「十分理解されている」(4.3%)と「まあまあ理解されている」(53.2%)を合わせて、57.5%が「理解されている」と回答している。

精神障害者は、「十分理解されている」(11.0%)と「まあまあ理解されている」(37.0%)を合わせて、48.0%が「理解されている」と回答しているが、一方で、「あまり理解されていない」(28.8%)と「全く理解されていない」(12.3%)を合わせると、41.1%が「理解されていない」と回答している。